令和４年度

東大和市・東村山市

# 地域の戦争・平和学習
# 及び
# 広島派遣事業

## 報 告 書

令和４年 12 月

東大和市・東村山市広島派遣事業実行委員会

# 東大和市長あいさつ

東大和市・東村山市広島派遣事業実行委員会　委員長
東大和市長　尾 崎 保 夫

東村山市と連携し、東京都市長会の多摩・島しょ広域連携活動助成金（子ども体験塾）の交付を受け、平成27年度から実施している「地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業」は、今年、8回目の実施となりました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、令和2年度にあっては、事業を中止し、令和3年度にあっては、規模を縮小して実施しましたが、令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の基本的な感染防止対策を講じ、コロナ禍以前のプログラム内容で事業を実施することができました。

事業の実施にあたりましては、多くの児童・生徒の皆様からお申し込みがありました中、両市合計で小学生12名、中学生8名に参加いただきました。

参加された小・中学生たちは、まず、自分たちが住む東大和市と東村山市の施設等を巡り、両市での戦争の歴史について学習をしました。

東大和市においては、今もなお、戦争の傷跡を残す都立東大和南公園内にある「旧日立航空機株式会社変電所」を見学していただきました。

普段じっくりと見る機会のない変電所を見学した小・中学生たちは、その弾痕等を間近で見ることで、自分たちが住む身近な地域でさえも、多くの尊い命が犠牲となり、戦争の脅威にさらされていたことを学んでいただけたことと思います。

その後、8月には、世界で最初に原子爆弾が投下された広島市を訪問し、被爆者の講話聴講や、一瞬にして破壊された広島市の記録、まちの復興の様子などについて学びました。

8月6日の平和記念式典に参列し、平和への祈りをささげるとともに、広島平和記念資料館における遺品や写真の展示などの見学を通じて、このような惨状を二度と繰り返してはならないことを深く胸に刻んでいただけたことと思います。

広島派遣後に実施した両市の報告会では、本事業の学習の成果はもとより、今後の恒久平和の実現に向け、平和に対する熱い想いなどを聞くことができ、今回もこの事業が大変意義深いものであったと感じております。

戦後77年の歳月が経過し、戦争を体験された方の高齢化が進んでおり、当時の出来事を語ることができる方々が、年々減少しています。

そのような中、今回、「地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業」に参加された小・中学生の皆さんにおかれましては、過去の戦争の記憶や犠牲となった方々への想いを決して忘れることなく、この事業で学んだことを更に次の世代に伝えていただきたいと思います。

東大和市では、恒久平和の実現と核兵器の廃絶を願い「平和都市」を宣言しています。

これからも、このような取組みを通じて、平和の大切さを伝えてまいります。

結びに、事業にご参加いただきました小・中学生及びその保護者の皆様、また、事業の実施にあたりご協力いただきました多くの皆様に、心から御礼を申し上げます。

令和4年12月

# 東村山市長あいさつ

東大和市・東村山市広島派遣事業実行委員会　副委員長
東村山市長　渡　部　　尚

人類史上最初の原子爆弾が広島と長崎に投下され、まちを一瞬にして破壊し、多くの人々の尊い命を奪った日から、今年で 77 年が経過しました。辛うじて生き延びた人々も、放射線の被害や差別に苦しみ、心身に負った深い傷は、今なお消えることがありません。

東村山市は、昭和 39 年に「平和都市宣言」を行い、昭和 62 年には「核兵器廃絶平和都市宣言」を行いました。それ以来、核兵器や戦争のない平和な社会の実現に向けて、さまざまな取り組みを重ねてまいりました。

その一つとして、平成 27 年度より東大和市と合同で市内の小・中学生を対象に「地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業」を実施しております。新型コロナウイルス感染症拡大により、令和２年度、令和３年度は広島派遣を中止いたしましたが、今年度は感染症対策を十分に講じたうえで、実に３年ぶりに広島派遣を実施することとし、数多くの応募者の中から学校も学年も様々な20名の小・中学生が参加いたしました。

小・中学生たちは、自分たちが暮らす身近な地域の戦争についてしっかり学んだうえで、広島を訪問しています。広島では平和記念式典に参列し、平和を祈念するとともに、爆心地や原爆ドーム、広島平和記念資料館などを見学し、原爆の恐ろしさを目の当たりにしました。

さらに、原爆が身体と心に与える苦しみについて、被爆者のかたから直接、体験談を聴いたことは小・中学生の心にも大きく響いたと思います。戦争の悲惨さや核兵器の恐ろしさを直接伺う機会が少なくなっているなか、この体験は子どもたちにとって大きな財産となることでしょう。

今年２月にロシアによるウクライナ侵攻が始まって以降、大変悲しいことに、多くの尊い命が奪われ、世界平和が脅かされる事態が続いております。戦争はおろか、核兵器を使用することは、絶対にあってはなりません。このような世界情勢の渦中にいるからこそ、私たちは、次世代を担う子どもたちに、二度と戦争を起こしてはならないこと、そして平和を守っていくことの重要性を伝えていく責務があります。

この事業を通じ、参加した小・中学生たちが平和についてどのように感じ受け止めたのか、ぜひこの報告書をご覧いただき、一緒に平和について考える機会にしていただければ幸いです。

結びに、本事業にご参加いただきました小・中学生及び保護者の皆様、ご協力いただきました皆様に心より御礼申し上げます。

令和４年 12 月

# 目　次


1 実施概要・日程 …… 4

2 参加者名簿 …… 5

3 地域の戦争・平和学習会 …… 6

4 広島派遣 …… 8

5 報告会 …… 12

6 参加者感想文

- Aグループ …… 16
- Bグループ …… 21
- Cグループ …… 26
- Dグループ …… 31

7 参加者アンケート …… 36

8 資料

- 東大和市平和都市宣言 …… 41
- 東村山市核兵器廃絶平和都市宣言 …… 42

# 1 実施概要・日程

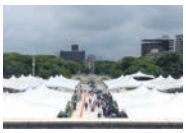
## 事業の趣旨・目的

東大和市・東村山市の小・中学生が、自分たちが住んでいる身近な地域でさえも戦争の脅威にさらされていたことを学習するとともに、世界で初めて核兵器が使われた広島市の惨状の記録と記憶を実際に見聞することで、戦争の悲惨さや命の尊さについて考え、平和意識の高揚を図ります。

## 実施経過

| | |
|---|---|
| 7月 7 日（木）東大和市<br>7月 8 日（金）東村山市 | 事業全体の事前説明会 |
| 7月29日（金） | 地域の戦争・平和学習会（東大和市・東村山市） |
| 8月 4 日（木）～6日（土）　2泊3日 | 広島派遣（広島市） |
| 8月10日（水） | 報告会準備（東村山市役所） |
| 8月20日（土） | 報告会（東大和市「平和市民のつどい」） |
| 8月28日（日） | 報告会（東村山市「平和のつどい」） |

## 広島派遣日程

| 日次 | 月日（曜） | 行程 | 宿泊地 |
|---|---|---|---|
| 1 | 8/4（木） | ●集合時間　東大和市駅 9 時 00 分　東村山駅 9 時 00 分<br>9:00 東大和市駅・東村山駅 ═ 10:59 品川駅 ═（のぞみ87号）═ 14:48 広島駅 ═ 15:30 広島市青少年センター<br>【昼食：車中にてお弁当】<br>広島被爆者体験講話聴講<br>グループワーク<br>═ 18:10 夕食 ═ 19:25 ホテル | 三井ガーデンホテル広島 |
| 2 | 8/5（金） | 7:00 ホテル（朝食） ═ 9:15 袋町小学校平和資料館 ═ 10:00 原爆ドーム<br>平和資料館見学（記録映像の鑑賞）<br> <br>---- 原爆の子の像 ---- 爆心地 ═ 11:00 本川小学校平和資料館 ═ 12:00 昼食 ═ 13:10 史跡広島城めぐり<br> <br>═ 14:40 広島市青少年センター ═ 17:00 夕食 -------- 18:10 ホテル<br>グループワーク | 記号<br>━ 電車<br>━ 新幹線<br>═ バス<br>------ 徒歩 |
| 3 | 8/6（土） | 6:00 ホテル（朝食） --- 7:30 広島平和記念公園<br>式典　8：00～8：45<br>式典に参加し、原爆死没者に哀悼の意を表し、恒久平和の実現を祈りました。<br>  <br>---- 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館 --- 広島平和記念資料館 ═<br> <br>12:22 広島駅 ═（のぞみ 24 号）═ 16:15 東京駅 ═ 東大和市駅・東村山駅<br>【昼食：車中にて折免滋くん弁当】<br>●到着時間　東大和市駅17時50分頃　東村山駅17時45分頃 | |

# 2 参加者名簿

市も学年も混合の４つのグループを編成し学習しました。

参加者：東大和市　10人（男４人　女６人）
　　東村山市　10人（男４人　女６人）

報告会：A・Bグループ　8月20日（土）東大和市「平和市民のつどい」
　　C・Dグループ　8月28日（日）東村山市「平和のつどい」

| グループ | 名前 | 学校 | 学年 |
|---|---|---|---|
| A | 菊池（きくち）　空（そら） | 東京都立立川国際中等教育学校 | 3年 |
| | 中越（なかごし）　瞳（ひとみ） | 東大和市立第五中学校 | 2年 |
| | 宮崎（みやざき）　茜（あかね） | 東村山市立秋津東小学校 | 6年 |
| | 櫛引（くしびき）　由那（ゆな） | 東大和市立第八小学校 | 6年 |
| | 土屋（つちや）　琴子（ことこ） | 東村山市立萩山小学校 | 5年 |
| B | 丸山（まるやま）　友音（ともね） | 東村山市立東村山第五中学校 | 3年 |
| | 大島（おおしま）　梨緒奈（りおな） | 東大和市立第三中学校 | 2年 |
| | 保科（ほしな）　陽紀（はるき） | 東大和市立第八小学校 | 6年 |
| | 扇（おうぎ）　喜亮汰（きりょうた） | 東村山市立南台小学校 | 5年 |
| | 鈴木（すずき）　優生（ゆう） | 東大和市立第五小学校 | 5年 |
| C | 内山（うちやま）　あゆ美（み） | 東大和市立第一中学校 | 3年 |
| | 松井（まつい）　翔亮（しょうすけ） | 東村山市立東村山第七中学校 | 1年 |
| | 小島（こじま）　椋太（りょうた） | 東村山市立北山小学校 | 6年 |
| | 平山（ひらやま）　優月（ゆづき） | 東村山市立秋津小学校 | 6年 |
| | 吉村（よしむら）　朝陽（あさひ） | 東大和市立第八小学校 | 5年 |
| D | 渡辺（わたなべ）　優芽（ゆめ） | 東村山市立東村山第七中学校 | 2年 |
| | 懸谷（かけや）　千穂（ちほ） | 東村山市立東村山第六中学校 | 1年 |
| | 下山田（しもやまだ）　悠人（ゆうと） | 東村山市立回田小学校 | 6年 |
| | 加藤（かとう）　煌誉（きらもと） | 東大和市立第八小学校 | 6年 |
| | 森本（もりもと）　実彩希（みさき） | 東大和市立第十小学校 | 5年 |

# 3 地域の戦争・平和学習会

小・中学生たちは、東大和市と東村山市の施設を見学し、自分たちが住んでいる身近な地域でも戦争の被害があったことを学びました。

**スケジュール**　7月29日（金）

午前
- 東村山市「被爆石モニュメント」見学・「東村山ふるさと歴史館」見学
- 東大和市 戦争体験映像記録DVD「沈黙の証言者」視聴

午後
- 東大和市指定文化財「旧日立航空機株式会社変電所」見学
- グループワーク「地域の戦争・平和学習について感じたこと・考えたこと」「広島で学びたいこと」

## 被爆石モニュメント見学

地域の戦争・平和学習の第一歩として、東村山市立中央図書館前にある「被爆石モニュメント」を見学しました。

「被爆石モニュメント」とは、昭和20（1945）年8月6日の原爆投下時に被爆した広島市役所旧庁舎の庭にあった敷石と、同年8月9日に被爆した長崎市立山里小学校の校舎の壁の一部を東村山市が譲り受け、平成元（1989）年9月25日に設置したものです。

長崎市の山里小学校は、爆心地から約600メートルのところにあり、原爆の熱線を浴び多くの命が奪われた場所です。戦後、原爆の恐ろしさを訴え続ける貴重な建物の一つとして、小学校は保存されてきましたが、昭和63（1988）年、建物の老朽化により解体され、東村山市が譲り受けました。

説明を聞いた小・中学生たちは、身近な場所に原爆の痕跡が残されていることを知りました。

## 東村山ふるさと歴史館見学

東村山ふるさと歴史館で、戦時下の東村山の様子や、市内にあった戦争関連施設について学びました。

小・中学生たちは、当時、東村山地域にもB29が飛来し照明弾と時限爆弾が投下され、家屋が被災し死者が出たことを教わりました。また、南秋津に墜落し死亡したB29の乗組員を追悼し、昭和35（1960）年に地元市民の手によって建立された「平和観音」のお話を聞きました。当時の人々の平和を祈念する気持ちに触れ、自分の中の平和について考える機会となりました。

軍事施設である東京陸軍少年通信兵学校についての説明では、当時の子どもたちの生き方、働き方を知り、自分の暮らしと比べとても印象に残ったようでした。

## 戦争体験映像記録DVD視聴

【東大和市戦争体験映像記録「沈黙の証言者～私たちのまちは戦場だった～」】

東大和市では、戦後70年の節目である平成27（2015）年に、平和の大切さを再認識するとともに、戦争を風化させることがないように、日立航空機株式会社に勤務されていたかたの戦争体験談や、旧日立航空機株式会社変電所の歴史や現在の姿をまとめた映像記録を制作しました。

小・中学生たちは、当時の様子を思い浮かべながら、貴重な体験談を視聴しました。

## 旧日立航空機株式会社変電所見学

昭和13（1938）年に建設された軍需工場の変電施設である「旧日立航空機株式会社変電所」は、昭和20（1945）年の空襲による傷痕が残る施設です。アメリカ軍から1,800発あまりの爆弾による攻撃を受け、工場のほとんどが壊滅した中、変電所だけは残り、戦後も稼働し続けました。平成5（1993）年まで操業を続け、平成7（1995）年に東大和市の文化財に指定されました。

8月を間近に控えた暑い日、空襲による生々しい被害の痕が残る建物を見学し、小・中学生たちは当時のこの地に思いをはせました。外壁を貫通した銃痕をまじまじと見つめ、あらためて攻撃のすさまじさを実感しました。

東大和市立郷土博物館の職員から、施設周辺の状況や、働いていた方々の被害についても説明を受け、理解を深めました。

## グループワークでのまとめ

地域の戦争・平和学習について、4つのグループに分かれ、ふせんと模造紙を使ったグループワークを行いました。「地域の戦争・平和学習について感じたこと・考えたこと」「広島で学びたいこと」について各グループの発表を聞き、広島での学習に向け、それぞれの考えをまとめました。

# 4 広島派遣

1日目 8/4(木)

## 広島被爆者体験講話の聴講

広島市青少年センター

講師：田中聰司（たなかさとし）さん

昭和20（1945）年8月6日、1歳5か月だった田中さんは下関市に住んでいました。原爆投下の翌日、田中さんは母親と一緒に母親の実家がある広島市に行き、そこで被爆しました。このように、原爆投下後に市内に入り被爆することを「入市被爆」といい、田中さんもその被害者の1人です。

田中さんは当時の自身の記憶はないものの、のちに母親から聞いた話をしてくださいました。母親の家族6人のうち4人が原爆により命を落とし、遺体は学校の隅でガソリンで焼かれたという痛ましい話に、小・中学生たちは真剣に耳を傾けました。

また、田中さんは、自身が経験した戦後の厳しい生活や被爆者差別、後遺症の辛さを語られました。青年時代、田中さんは口内炎に苦しみましたが、50歳を過ぎて、実は被爆の影響でがんを発症していたことが分かります。1歳で入市被爆して以来、大人になっても後遺症に苦しむという壮絶さに小・中学生たちも衝撃を受けました。

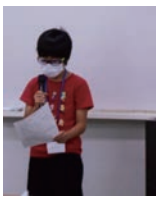
田中さんは、最後に小・中学生たちに向けて「皆の将来の夢は平和があってこそ。周りの人も自分自身も傷つけないために何ができるのか、考えてみることが平和への一歩」と呼びかけました。

聴講後、グループごとに講話から分かったこと、感じたことを話し合い、発表しました。「平和な世の中のために、良いリーダーを選ぶことが大切。選挙権を持ったら必ず選挙に行きたい」等の意見があり、聞いた話を今後の自身の行動に結びつけられていたことが印象的でした。

## グループワークの様子

Aグループ

Bグループ



Cグループ

Dグループ

2日目 8/5(金)

## 袋町小学校平和資料館

爆心地から460メートルの距離にある袋町小学校では、疎開していた生徒を除いて大半の人が犠牲になりました。

原子爆弾により木造校舎は全壊全焼し、鉄筋コンクリート3階建ての西校舎は外形のみを残して焼失しました。かろうじて倒壊を免れた西校舎は原爆投下翌日から救護所となり、階段の壁面には被爆者の消息を知らせる多くの伝言が残されました。今でも一部は残っており、当時の過酷な状況をうかがうことができます。

## 原爆ドーム

大正4（1915）年に「広島県物産陳列館」として建てられ、戦時中は官公庁等の事務所として使用されていました。爆心地から約160メートルの至近距離にあったため、当時建物の中にいた人は全員が亡くなりました。戦後、取り壊しか保存かで世論が分かれましたが、核兵器の悲惨さを後世に語り継ぐため保存工事が行われ、原爆の「負の遺産」としてその姿をとどめています。小・中学生たちは初めて自身の目で原爆ドームを見て、その迫力に圧倒されました。

## 原爆の子の像

2歳で被爆した佐々木禎子さんは、小学6年生のときに白血病を発症しました。病気を治したいという願いを込めて鶴を折り続け、その数は千羽を越えましたが、8か月の闘病生活の後、12歳で亡くなりました。

禎子さんの友人たちの熱心な思いが世間を動かし、原爆の子の像は建立されました。像には、年間約10トンにも及ぶ、1千万羽もの折り鶴が捧げられます。小・中学生たちも、自分たちが折った折り鶴を捧げ、平和を願いました。

## 島病院（爆心地）

相生橋を狙って投下された原爆はやや東にそれ、島病院の上空約600メートルで炸裂しました。現在は島内科医院となっており、建物の横に説明板があります。今でこそのどかなこの地に恐ろしい威力の原爆が落ち、島病院の付近では熱線によりほとんどの人々が一瞬にして命を奪われたことに小・中学生たちは衝撃を受けている様子でした。

## 本川小学校平和資料館

爆心地から至近距離にあった旧本川国民学校の校舎にある平和資料館を見学しました。当時は珍しかった鉄筋コンクリート建ての校舎は骨格を残してほぼ全焼し、校長、教職員10名、児童約400名の尊い命が奪われ、奇跡的に助かったのは教職員1名、児童1名だけでした。被爆後の写真や熱で溶けたガラス瓶等を真剣に見学し、熱線による被害の大きさを目の当たりにしました。

## 史跡広島城

原子爆弾により、城内の建造物は全て壊滅しましたが、昭和33（1958）年に天守閣の外観は復元されました。小・中学生たちは復元された天守閣の一番上から、原子爆弾の被害から復興した現在の広島の様子を眺め、平和の大切さをより強く感じました。

### ちょっと一息　広島で食べた絶品グルメ

広島派遣では、広島を代表するグルメや、広島ゆかりのご飯をいただきました。美味しいのはもちろん、お店のかたから現地ならではのお話をたくさん聞くことができ、お腹も心も満たされました。

**1日目夕食**

名物の「むすび」が入った御前。素材が光る美味しさに、お代わりする人もたくさんいました。広島では、お別れの挨拶のとき「また会おうね」の意味をこめて「ほいじゃあね(の)」と言うそうです。最後はお店のかたと「ほいじゃあね～」「ほいじゃあの～」と言ってお別れしました。

**2日目夕食**

広島名物のお好み焼きをいただきました。目の前の鉄板で作ってくださるお好み焼きは熱々！食べ終わるころにはお店のかたともすっかり打ち解けていた一同です。

3日目 8/6(土)

## 平和記念式典（広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式）

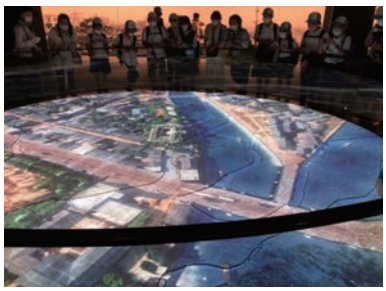
平和記念公園で行われた平和記念式典（広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式）に参列しました。公園には前日にも行きましたが、8月6日は張り詰めた雰囲気が会場を覆っていました。広島の子どもたちや海外からの出席者のスピーチに耳を傾け、原爆の犠牲になられたかたに哀悼の意を込め、恒久平和を祈って黙とうを捧げました。活気あふれる広島の街が、その瞬間静寂に包まれました。

## 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館では、原爆死没者と同じ数の14万個のタイルで作られた被爆後の広島の様子を描いたパノラマ壁画に小・中学生たちは圧倒されました。また、保存されている原爆死没者の名前と遺影を見て、一人ひとりが歩むはずだった人生と、それを奪った原爆の残酷さに胸を痛めました。

## 広島平和記念資料館

広島平和記念資料館は、原爆投下の瞬間を再現したホワイトパノラマから始まり、被爆者の遺品や当時の写真等を展示しています。小・中学生たちは13歳で亡くなった滋くんが持っていたお弁当箱や、3歳で亡くなった伸一ちゃんが原爆投下の瞬間に乗っていた三輪車等を見学し、当時の子どもの身に降りかかった悲惨な事実を目の当たりにしました。また、血の付いた衣服や体に残るケロイド等の写真を見て、原爆が人体に与えた被害についても学びました。遺品一つ一つに込められた人々の思いを感じ取り、戦争は繰り返してはいけない、原爆は二度と落としてはいけないという思いを最後に確かめました。



# 5 報告会

本事業は、東大和市と東村山市の共同実施事業のため、報告会は、各市で実施した平和行事の中で行いました。事業を通して勉強し、分かったことや気づいたこと、そこから何を感じ、思ったのかを発表しました。AからDまでの４グループのうち、A、Bグループは東大和市「平和市民のつどい」、C、Dグループは東村山市「平和のつどい」で発表を行いました。

報告会 1

| | |
|---|---|
| 日時 | 令和４年８月20日（土）　東大和市「平和市民のつどい」 |
| 場所 | 都立東大和南公園　旧日立航空機株式会社変電所前　平和広場 |

## Aグループ

旧日立航空機株式会社変電所について、以前は軍需施設だったことや、激しい爆撃により111人が犠牲になったことを述べ、東大和市にもたしかに戦争があった証としてこれからも残していきたいという思いを伝えました。

また、広島派遣では、被爆者のかたが平和の大切さを教えてくれたことを報告し、多くの人が亡くなる戦争は絶対やってはいけないと発表しました。また、２歳で被爆した佐々木禎子さんは、自分の夢を戦争で叶えられず、とても悔しく、悲しかっただろうと感想を述べました。

現地に行くことで当時の出来事を想像し、戦争や原爆についてより深く考えることができたようです。これからも原爆ドームのような建物は残し、戦争の悲惨さを伝えてほしいと語りました。

〈個人の発表〉

- 私は戦争、平和について学び、「考えてみる」ことと、被爆者のかたの話を聞いて、感謝することは大切だと思いました。自分が助けてもらったとき、支えてもらったとき、相手の目を見て心から「ありがとう」を言ったり、相手からは「ありがとう」と言ってもらえるような人になりたいです。そして、色々な人と「協力」して何かを成し遂げていきたいです。「考えてみる」こと、考えるために「学ぶ」ことは、今の私にできる平和のための行動だと思います。
- 私はこれから平和を創るためにできる行動を考えました。１つは、困っている人などがいたら助けてあげること。もう１つは、差別やいじめを受けている人などがいたら、自分は勇気をもち差別を「だめ」と言い、いじめを止められる人になること。最後の１つは、相手の意見もしっかり認めたうえで、自分の意見を考えられる人になることです。そして、身近な人達から幸せにし自分の幸せもつくり、平和な未来、世界を創っていきたいです。
- これから自分が平和のために行動したいことの１つ目は、自分の幸福よりも相手の幸福を優先することです。皆が相手を気遣うようになり、幸せな世界がつくれると思います。２つ目はボランティア活動に参加することです。募金等をすれば、多くの困っている人達を助けることができるし、募金以外にもランドセルを寄付するなど、お金を使わずに人を助けることもできます。このような行動をとり、世の中が平和になるようにしたいです。
- 私はこの事業で戦争を学び、後世に語り継ぐことが大切だと思いました。地域の戦争については、身近なところでも戦場と化していたことを知りました。次に、実際に広島を訪れて被爆者の話を聞き、当時の辛い生活を知り、自分が今とても幸せに暮らしていることを実感しました。変電所や原爆ドームなど後世に語り継ぐことができるものは残し、平和を築きたいと思いました。
- 広島に原爆が落ちたのは77年も前のことですが、そのせいで苦しんでいる人が今もいます。

今でも核を持っている国や戦争をしている国があります。戦争の怖さ、核の怖さを知ると、私は核を持っている国、戦争をしている国が信じられません。私は多くの人が亡くなり、苦しい思い、辛い思いをした戦争が大嫌いです。これからは私が戦争の悲惨さを伝える立場になり、核や戦争のない平和な世界にするために、世界中の人に戦争と核の恐ろしさを伝えていきたいです。

## B グループ

地域の戦争・平和学習では、東大和市の旧日立航空機株式会社変電所を訪れ、自分たちが住む東大和市でも沢山の人が亡くなったことを知りました。毎日戦闘機が飛んできて、爆弾を落としていったのはとても怖かっただろう、と当時の人々の気持ちになって発表しました。

広島の平和記念式典では核兵器を無くそうと訴え続けている一方、77年経った今でも核兵器が無くなっていないことが分かり、戦争を体験した人が減るなかで、平和のすばらしさが分からない人が増えることが怖いと思ったと話しました。また、血液の跡が残る遺品を見て、胸が苦しくなり、世界から核兵器が無くなるのはいつになるのか、核兵器を無くすために自分には何ができるのか考えるべきだと伝えました。

〈個人の発表〉

- 私が、地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業で印象に残ったことは、広島被爆者体験講話聴講です。原爆の恐ろしさを教えてくれるかたたちが減ってきている中、被爆者のかたの体験を聞くことができ、忘れられない体験をすることができました。被爆者のかたが最後おっしゃった「平和でないと、夢も叶わない」という言葉が印象に残りました。この活動を通して、周りの人たちに、戦争を二度と起こしてはならないことを伝えていこうと思いました。
- 変電所を残すために1億3千万円のお金もかけるほど、変電所は「もう戦争をしてはいけない」という大切な意味がこめられています。身近な地域のことでも、戦争について多く知ることができました。佐々木禎子さんの話も印象に残りました。これから僕は平和のために、自分が幸せなだけではなく、みんなが幸せにいられるように、戦争の反対について声をあげていったり、核兵器をなくす取り組みに常に参加していきたいです。
- 変電所や原爆ドームが伝えてくれることに共通することは、当たり前の暮らしや大切な人を戦争で一瞬にして失うということです。そんな戦争や核兵器を少しずつなくすためには一人一人がブレない思いや考えを持って戦争や核兵器の開発、使用に反対の声を上げていくことだと思います。もう一つは他人の気持ちに寄り添い、他人事を自分事として考えることができる国の代表者を僕たちが選ぶことです。核兵器や戦争は僕たちの手でなくすことができます。
- 広島平和記念資料館の「ホワイトパノラマ」が印象に残りました。原爆が落とされた瞬間がとてもリアルに再現され、当時の様子がうかがえました。旧日立航空機株式会社変電所では、厚さ約20センチメートルほどある壁が貫通しており、人へ当たれば大きな被害がでると思いました。ぼくは、これから平和のために人々に戦争の愚かさを伝え、戦争をこの世から無くしたいと思いました。
- 私は変電所に空いている穴は爆弾が直撃してできたものだと思っていましたが、破片が当たってできた穴もあるそうです。つまり、小さな破片でも、ものすごい速さで飛んでくるため、大きな傷ができてしまうのです。このような建物の傷と心の傷はすぐに治すことはできません。戦争という過ちを二度と繰り返さないために、私は地域の人たちと力を合わせて、戦争の被害を受けた建物などを守り、恐ろしさを語り伝えていきたいです。

報告会 2

| | |
|---|---|
| 日時 | 令和４年８月28日（日）　東村山市「平和のつどい」 |
| 場所 | 東村山市立中央公民館ホール |

## Cグループ

地域の戦争･平和学習では、東村山市の秋津町にB29が墜落したことを初めて知り、身近な地域でも戦争の被害があったことを実感したと話しました。また、爆弾を落とした場所の地図をみたとき、罪のない人々が暮らす場所にも爆弾を落としていたことが分かり、強い怒りの気持ちを覚えたと語りました。

広島を訪問して、原爆の被害は想像よりはるかに大きく、たくさんの死者を出したことに苦しい気持ちになったと話しました。また、広島平和記念資料館に展示されていた「人影の石」などは原爆の残酷さを訴えているように見えたようです。人々の未来を奪った原爆はもう使ってはいけないし、戦争による犠牲者は二度と出してはいけないと平和への思いを強く訴えました。

〈個人の発表〉

- 長崎に落ちた原爆を最後に落ちた核兵器にしたいと願っています。大切な人や日常、未来が突然奪われ、広島では一瞬にして14万人の人たちが命を落とし、被爆した後も後遺症で苦しんでいる人がいます。そんな中、被爆者の平均年齢は84歳を超え、声を聴く機会も少なくなっています。でも、今年は核兵器禁止条約の締約国が初めて集い、核兵器のない世界に向けた取り組みをしているという希望もあります。今、僕たちにできることは、被爆者の声を聴き、思いを想像することです。
- 戦争は本当にやってはいけないことと、平和の尊さを知りました。原爆が広島に投下され、たくさんの人が亡くなり、コンクリートで作られた建物以外はほとんど吹き飛んでしまったということが分かりました。助かっても放射能を浴びてがんになったり、白血病になったりした人もいます。僕にとって平和は、幸せになるときを考え、それが実現されることです。学んだことをたくさんの人に話し、受けついでいきたいです。
- 本川小学校平和資料館で見た「安らかに眠ってください。過ちは繰り返しませんから」という言葉が忘れられません。荒々しい文字で書かれたその言葉は「私は大きな過ちをした。だがその過ちは二度と繰り返しません」という平和宣言のように聞こえました。僕は、このことをもっと色々な人に知ってほしいと思いました。平和とは喧嘩や仲間外れを無くすことからでも始められると思いました。
- 被爆者体験講話では、実際に被害にあったかたしか分からないことを教えてもらいました。小学校では寄付された粉ミルクを飲み、それから苦い薬を飲んでいたことが衝撃でした。粉ミルクではすぐにお腹が空いてしまうし、その後に苦い薬を飲むのは私なら耐えられません。広島平和記念資料館の展示物を実際に見てみると、お弁当の食べ物がまだ入っていたり、レンガが削れていたりなど、細かい部分にも気づき、原爆の被害がもっと伝わりました。平和とは、人々が些細なことでも笑いあえることだと思います。
- 広島平和記念資料館の展示は、焼け焦げたお弁当や血の付いたボロボロの服など、見ているだけで息苦しくなるようなものばかりでした。被爆者の体験講話では、資料館の展示物だけでは分からない原爆の怖さを教えてもらいました。私たちのような若い世代が次の世代に原爆の恐ろしさを伝えていくことで、より平和と命の大切さが分かると思います。私にとって平和とは当たり前の日常を笑顔で楽しく過ごせることです。

## Dグループ

地域の戦争・平和学習からは、東村山市立中央図書館の前にある被爆石モニュメントについて報告しました。山里小学校で亡くなったたくさんの子どもたちは、原爆がなければ今の自分たちのように幸せに生きていけたはずであり、身近なところに原爆の痕跡があることを家族や友達に伝えていきたい、と語りました。

被爆者体験講話では、子どもたちが戦時中に経験した過酷な暮らしを知り、学校から帰ってすぐ自由にご飯を食べられる自分たちは恵まれていると、戦争のない日常の大切さを実感したようでした。

広島平和記念資料館の遺品をみて、亡くなったかた一人ひとりに人生があり、自分たちと変わらない日常を送っていたことを実感したそうです。戦争の怖さと悲惨さをもっとたくさんの人に伝えたいと発表しました。

〈個人の発表〉

- 広島に行って学んだことは、戦争は絶対にあってはならないということです。資料館の写真や被爆者のかたのお話を聞いて、原爆の怖さを感じました。一方で核を無くそうと訴えても無くならない現実。ウクライナで起きている戦争によって核兵器なしに平和は維持できないという考えが増していること。私は少しでも人々が幸せを築けるように戦争の恐ろしさを伝えたりお金を寄付したり、平和について考えて行動していきたいと思います。
- 僕は被爆者体験講話が印象に残りました。１つ目は、被爆者のかたの家族のうち１か月で４人が亡くなったこと。たった１か月で４人も家族を失うなんて、僕だったら立ち直れないと思いました。２つ目は、子どもたちは苦い薬を１時間かけて飲み、全部飲まなかったら帰れなかったということ。どれだけ量が多く、まずかったのだろうと疑問に思いました。３つ目は、子どもが店から食べ物を盗んだということ。とてもお腹が空いて辛かったのだろうと思いました。お話を聞いて、原爆の恐ろしさや辛さを知ることができました。
- 核は持つことだけでも許されてはならないと思います。広島は、たいへん都会だという印象でしたが、77年前も同様ににぎやかだったそうです。原爆の被害はとても大きかったに違いありません。原爆ドームを初めて実際に見ると、なんだか怖くて鳥肌が立ちました。広島平和記念資料館の展示は、見るのが辛くても目を背けてはいけない大切なものであり、後世に残して伝えていかなければなりません。戦争は、家族の生活を引き裂き、家や病院を無くし、大切なものを次々と奪います。この美しい地球の戦争がゼロになり、犠牲者がこれ以上増えないことを心から祈っています。
- 戦争ではどんな被害にあったか、今私たちは平和なのかが気になり、この事業に参加しました。東大和市では、旧日立航空機株式会社変電所が印象に残りました。1800発あまりの爆弾が投下され工場のほとんどが壊され、111人の大切な命がなくなってしまったからです。広島では、原爆の子の像が印象に残りました。最後まで自分の病気に立ち向かっていたからです。私は、身近な人に戦争は絶対にやってはいけないと教えてあげたり、差別をしないで平和にしたりしていきたいです。
- 広島の原爆被爆者のかたは今でも差別や病気に苦しんでいます。戦争は昔のことではなく、今でも続いていることだったのです。平和について考え、恐ろしさを感じることのできた私たちだからこそ、たくさんの人に平和を伝えられると思います。１人の力は小さいかもしれませんが、たくさん集まれば大きな力になります。戦争は恐ろしいもの、原爆は二度と落としてはいけないものということを、身近な友達や家族からでも伝えていきたいです。

# 6 参加者感想文

参加した小・中学生たちが、地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業を通じて、感じたことを自分たちの言葉でつづった文章をそのまま記載しています。



## Aグループ

## 戦争の愚かさと平和の尊さ

菊池　空

私は今まで「戦争」というものに対して、どこか他人事のように考えていました。戦争についてニュースで聞いても、学校で学んでも、それは知識でしかなく、実際に見たり聞いたりすることによって感じられるものがあるのだと思いました。

私はこの事業に参加して、特に印象に残ったことがあります。まずは、地域の戦争・平和学習会でのことです。私が住んでいる東大和にあって、実際に戦争の被害を受けた建物が「旧日立航空機株式会社変電所」でした。この変電所は、本当に私たちの身近にあります。ですが、私は今まで変電所をじっくり見たり、考えたりする機会がありませんでした。実際に中に入って展示を見たり、空襲のあとが残る壁を見たりと、身近な地域でも戦争が起きていたことを実感させられました。私は、壁に痛々しいほどあいている穴を見て、より戦争が怖くなりました。身近な東大和でも戦争が起きていたと知ることで、戦争をとても身近に感じることができました。

次に、広島派遣でのことです。私は実際に広島に行って、学んだことが山ほどあります。その中でも印象深いものが、被爆者体験講話聴講と平和記念式典、平和記念資料館です。被爆者体験講話聴講では、被爆者の方のお話を聞くという貴重な体験をさせていただきました。今回お話を聞いた田中さんは、被爆したことで家族を失い、被爆してから時間が経った今でも後遺症に苦しまれています。実際にお話を聞くことで、当時の辛さが想像でき、胸が苦しくなりました。今、被爆者の高齢化が進んでいて、お話を聞くことができる機会がどんどん少なくなっているそうです。私は、この貴重な体験を忘れずにいたいと思います。平和記念式典では、多くの人が平和を願っていて、私も心から平和を祈りました。1945年8月6日という日から77年が経った今、式典に参加して、多くの人と共に平和を祈ることができて嬉しく思います。これから様々な人、様々な国が協力し合って、核のない平和な世界が実現することを願っています。平和記念資料館ではとても衝撃を受けました。被爆した時に着ていたボロボロの血が付いた服や、真っ黒になってしまったお弁当、死ぬ怖さと闘いながら書いていた日記、被爆時に撮った写真など、どれも胸をしめつけられるようなものばかりでした。見るのが辛くなるほど、被爆した当時のまま時が止まったかのように残っていて、戦争のおそろしさを実感しました。展示を見終え、平和公園から原爆ドームまでを一直線に見たとき鳥肌が立ちました。その景色は絵のようで、資料館で見た被爆後の写真と重なって見え、心が震えました。今もそのときの衝撃が心に残っています。

私はこの事業を通して、多くのことを学び、成長することができたと思います。実際に見たり聞いたり経験することによって、戦争と平和、そして核に対する考え方が180度変わったと言っても過言ではないと思います。私は戦争が大嫌いです。その気持ちはずっと変わりません。ですが、今では自分から行動を起こして世界を変えたいと思っています。今、私は、毎日当たり前にご飯を食べて、勉強をして、好きなことができています。しかし、世界では今も戦争が起きている国があります。そして、核を持っている国もあり、平和だと言える世界ではありません。私は世界中の人が笑って楽しく過ごせる平和な世界になることを願っています。そのために私は、世界中の人に戦争の愚かさ、核のおそろしさ、平和の尊さを伝えていく人になりたいです。一分一秒でも早く、誰もが笑顔でいられる平和な世界になるように、私は祈っています。

# 広島派遣で学んだこと

中越　瞳

私は広島派遣事業に参加し、戦争、核の恐ろしさ、平和の尊さについて学ぶことができました。

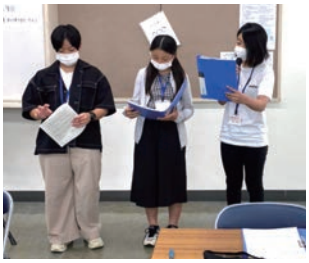
私が派遣事業に応募するきっかけは学校でプリントをもらう時に担任の先生が「日本人として学ぶべきことの一つをしっかり学んで欲しい。」と言っていたからです。派遣事業に参加する前の私は、原爆ドームが広島にあるのは分かる、自分が住んでいる東大和市には空襲を受けた変電所がある、でも、どうして残しているんだろうと思っていました。その答えは７月29日の事前学習会と８月４日から６日の広島派遣でわかりました。

まず、７月29日の事前学習会では東村山市の被爆石モニュメントと東村山ふるさと歴史館を見学しました。被爆石モニュメントは長崎県の長崎市立山里小学校の壁、広島県の広島市役所の旧庁舎の庭にあった敷石がありました。長崎市立山里小学校は爆心地から約600メートルの場所にあったため、児童約1500人中1300人が亡くなったことを知りとても悲しくなりました。

次に東村山ふるさと歴史館では、平和観音、東京陸軍少年通信兵学校など、東村山市の歴史について知ることができました。とくに兵学校の敷地は今でも集合住宅が多く、昔の名残があるのだなと思いました。

次に変電所の見学ではもともと飛行機のエンジンを作っていることを知り驚きました。また、３回も空襲を受けて111人も犠牲になったことを知って、身近な地域、なにげなく遊んでいた公園でさえも戦場だったことを知り、とてもショックでした。

８月４日から６日の広島派遣では、１日目の被爆者体験講話で一気に戦争が身近なものであり、忘れてはいけない、無かったことにしてはいけないものだと痛感しました。２日目は資料館や原爆ドーム、爆心地、原爆の子の像を見学しました。資料館は当時の記録や伝言、折れ曲がった鉄かぶとなど、悲惨さを物語っていました。原爆ドームは広島派遣の前から知っていたけど、原爆が落ちた瞬間に、原爆ドームの中にいた人は即死だったことを知り、原爆の威力は言葉では表すことができないほどの爆弾であることを実感しました。原爆の子の像は、最初に見た時は折り鶴がすごいなと思っていたけど、モデルとなっている佐々木禎子さんの話を聞くと、たくさんある折り鶴は平和を祈って折られていて、戦争は二度としてはいけない、戦争に使われた核兵器により、今も苦しんでいる人がいることを伝えたいという思いが込められているのかなと思いました。



３日目は、平和記念式典、広島平和記念資料館、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館を見学しました。平和記念式典では様々な国の大統領や大使も参加していたので、それだけもう戦争をしてはいけない、核を使用して、民間人を玩具のように扱うのはしてはいけないという思いがあるのだなと思いました。また、広島平和記念資料館では、写真を撮って家族に見せようと思いましたが、１回もシャッターを切ることが出来ず、当時の人も同じ気持ち、さらに辛かっただろうなと思いました。

私は広島派遣事業で戦争について学び、私が今、安全で楽しく過ごせているのは、過去に辛い思いをして過ちを犯し、その反省から得られる生活なんだと思います。だから、戦争で空襲を受けた変電所や原爆ドームを残していて私たちが戦争について学び、さらに多くの人へ伝えていくことが大切だと知ることができました。今回のこの体験と学びを、常に心の宝とし、人生の高い壁にぶつかっても、乗り越えていきたいです。

# 平和な未来をつかむために

宮﨑　茜

私は、「東大和市・東村山市地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業」に昨年に続き今年も参加しました。そして去年は行けなかった広島にも行く事が出来ました。戦争の恐ろしさや平和の大切さを改めて知り、加えて広島の原爆に関する様々な事も知る事が出来ました。そこで、皆さんに私が学んできた事を紹介したいと思います。

７月29日に私達の身近にある、「被爆石モニュメント」や「平和観音」について学びました。他にも「東村山ふるさと歴史館」に行き戦時中の東村山について学びました。去年よりも戦争中の暮らしや当時の方々の様子を詳しく学べたと思います。

次に、東大和市にある「旧日立航空機株式会社変電所」に行きました。去年は変電所の中に入る事が出来ませんでしたが、今年は中に入る事が出来てよかったです。変電所の中には空襲で被害が起きた当時のまま残っている物がありました。２階には空襲の被害を受けた機械もあり、どれだけ酷い空襲を受けたのかがよく分かりました。壁には３回もの空襲で亡くなってしまった111名の方々の名前が展示されていました。それを見ながら当時の様子を聞くと、「ただそこで働いていただけなのに戦争のせいで111名の方が亡くなってしまったのだ」と思い、戦争は決してしてはいけないものだと改めて感じました。

次に広島での事です。広島では「原爆ドーム」や「原爆の子の像」等を見ました。原爆ドームは写真やイラストでしか見た事がありませんでしたが、本物を見ると原爆の威力や怖さが体全体に伝わってきました。原爆の子の像は聞いた事がある程度でしたが実際に見て説明を読んでみると、原爆の子の像のモデルは佐々木禎子さんという２歳の時に被爆してしまった少女だという事を知りました。そして禎子さんが中学に進学できなかった事やかなわなかった夢の事を思い悲しくなりました。

他にも、資料館や記念館に行きました。特に私が印象に残っている場所は、「広島平和記念資料館」という、被爆者が所持していた物等が展示されている資料館です。展示されてあった中でも特に、滋君弁当と焼けただれた三輪車が印象に残りました。それらは被爆当時のまま展示されてあり、それを所持していた被爆者の人の気持ちが伝わってきました。そして、他にも被爆して、服の一部がなかったり、焼けただれたりした物が展示されていました。原爆から受けた被害は体にも心にも残るものでした。世界で初めて原爆が投下された広島に行き、原爆の恐ろしさや被害の大きさを知る事が出来ました。

最後に平和のつどいです。平和のつどいでは、広島で学んだ事を発表しました。発表では次の世代の人達に戦争や原爆の恐ろしさ、平和の大切さを伝える事ができました。これも平和への第一歩だと思いました。

私はこの事業に参加して得た経験をいかし、中学・高校そして大人になっても平和な世界・未来を創る上で自分ができる事を考え、実際に行動に移していこうと思います。自分が学んだ戦争に関する事を次の世代に伝えていき平和を皆で創り上げていこうと思いました。

# 派遣生として学んだこと

櫛引　由那

私は、この地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業に参加し、学んだこと、知ったことが６つあります。

１つ目は、被爆者の方からお聞きした、戦時中の暮らしについてです。私は、戦時中でもお米やお味噌汁くらいは食べることができると思っていたのですが、白米を食べることができるのは、ごく稀なことで、ひどい時は薩摩芋を少量しか食べられなかったと仰っていたので、とても驚きました。また、戦時中は親を失い、戦争孤児となった子ども達が靴を磨いて生活していたと知り、とても驚きました。そして戦時中の暮らしは、私が想像していたものよりもはるかに苦しかったのだと知りました。

２つ目は、核兵器の恐ろしさについてです。実際に東大和南公園にある旧日立航空機株式会社変電所へ行き、核兵器について学びました。核兵器は私の想像の何倍も大きく、そしてとても重そうだったので、このような大きさのものが空から降ってくると考えてみたら、とても恐ろしかったです。

３つ目は、空襲についてです。東大和でも空襲により沢山の死者が出ていました。たった３回の空襲のせいで111人もの尊い命が失われていたこと、そして東村山市にB29が墜落したことを知りました。

４つ目は、人の感情についてです。実際に資料館などに行ってみて、戦時中に生きていた人々はいつ亡くなってもおかしくない状況にあったはずなのでとても怖い思いをしたのではないかなと思いました。何故なら私がもしその状況に置かれているのならば私は怖くて、すぐに泣いてしまいそうだと思ったからです。

５つ目は、広島市青少年センターで聞いた被爆者である田中さんのお話です。聞いた中でも特に印象深かったのは、小学校での話です。戦時中に子供が学校に行き友達に挨拶しようとした瞬間に核兵器のせいで友達が亡くなるという話です。私は目の前で友達が亡

くなってしまったら怖くて、怖くて体が動かなくなるかもしれないと、想像しただけで恐怖でした。

６つ目は、「想像」の話です。この想像の話は知ったことと学んだこととは少し違う話になってくるのですが、この想像の話は私自身がもし「戦時中に生きていたら」という想像の話です。私は広島に派遣され、広島で派遣生として２泊３日を過ごしていろいろなことを想像しました。もし「戦時中に生きていたのなら何をしたのか」や「戦時中に生きていて今も生きていたら何を語り継げばいいのか」などの後世に戦争があったのだということを伝えていくにはどうすればいいのかということを中心にたくさんの想像をしていました。想像をすると戦時中に生きていた人たちの心が少しはわかった気がしたので沢山学ぶことができたと思いました。

最後にまとめです。私は地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業に参加して、戦時中の暮らし、核のこわさ、空襲などのことを学びました。そして現地に行って学んだからこそ分かったことがあるのではないかなと思いました。私はこの広島派遣事業で戦争についての意識が変わり、自分から遠い存在としてみていた戦争がすぐ近くあることを知りました。これからは、この経験を生かし、近くの人から戦争についてのことを広めていきたいです。

# 学習を通して変わった私の考え

土屋　琴子

私は、この事業に参加する前は戦争のことについて本やインターネットで調べても身近に感じることはありませんでした。戦争は残酷な物で決してやってはいけないこと。平和は大切でとても尊いこと。それは分かっていてもどうしても自分とは遠いものだと捉えていました。

まず、地域の戦争・平和学習会では私は東大和市にある変電所と東村山市の被爆石モニュメントが深く印象に残っています。変電所はコンクリートの分厚い壁にたくさんの爆撃された跡がありました。私は今まで身近な場所での戦争について見たことも聞いたことも無かったので変電所のような被害や建物が東大和市にもあると知ってとても衝撃で、そしてとても悲しかったです。そして変電所付近の爆撃で大きな被害を負った工場では、3回の空襲により111人もの人が犠牲になり、その中には働いていた多くの女性や自分と年の近い人達もいたと聞いて今までとは比べられないほど戦争を身近に感じました。被爆石モニュメントでは長崎県の山里小学校の壁で山里小学校の児童は約1300人が亡くなったと聞き自分と同じ小学生がこんなにも亡くなってしまったことがとても怖く感じ印象に残りました。その他にもB29が墜落した場所に作られた平和観音や、東大和市の戦争体験映像記録の「沈黙の証言者」など、地域の戦争・平和学習会全体を通してより戦争の身近さを実感しました。

そして広島では、私は特に原爆ドームが衝撃的でした。骨組みが剥き出しになって折れていたりしていて、建物全体が戦争や原爆の悲惨さを物語っているようでそれがとても印象に残っています。原爆ドームは写真では見たことがありましたがやはり実物を見ると写真よりも迫力がありました。平和記念式典では色々な場所からたくさんの人が集まっていました。外国人や、私達と同じように学習しに来ている人達など色々な人が来ていました。私は77年たった今でも原爆の被害を悲しく思い、犠牲になってしまった方達のために

集まっているのだと思います。そして広島平和記念資料館では被爆者の着ていた服や使っていた道具、大切にしていた物がたくさん置いてありました。そして物一つ一つに持ち主の思いが綴られていて、被爆者も必死に生きていたんだと改めて実感させられとても胸が苦しくなりました。他にも被爆時の絵や写真、後遺症について、被害を負った建物の残骸など原爆について色々なことが書かれていました。どれも細かく記されており、一つ一つが心に残っています。

私は地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業で前よりもはるかに戦争が怖く感じます。たくさんの人が亡くなり、たくさんの人の思いを散らした戦争、原爆がこれからは絶対にない保証なんてないし、実際に今ロシアのウクライナ侵攻が行われています。核兵器を保有している国もあります。その事実がとても怖いです。

ですが私は、地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業で色々なことを学ばなければこれほど戦争について深く考えることは出来なかったと思います。

戦争や核兵器のない平和な世界、それを実現するのはとても難しいことだと思います。一人一人が出来ることをやっても、すぐには変わらないことも多いと思います。ですが色々なことを学び、戦争のことを深く考える。それを大勢の人がずっと続けていたら、きっといつかは平和な世界が実現するかもしれません。そのために、私はこれからもずっと学び続けていきたいです。

## B グループ

# 広島派遣事業で学んだこと

丸山　友音

私が広島派遣事業で学んだことは、３つあります。

１つ目は、１日目に聞いた、広島被爆者体験講話聴講です。広島被爆者体験講話聴講では、77年前、広島で、被爆した田中さんの話を聞くことができました。被爆から、77年という年月が過ぎ、被爆した方たちの平均年齢は84歳となりました。被爆したときの年齢も幼くなっていき、原爆の恐ろしさを教えてくれる方たちが減ってきている中、被爆者の体験を聞くことができ、忘れられない体験をすることができました。田中さんは、原爆が落ちた後の生活も話してくれました。原爆が落ちたあと、川の水などを飲んでしまい、口、食道などに、がんができてしまい、後遺症ができてしまいました。東京に来ても、差別や後遺症などにより仕事につくことも難しかったそうです。被爆者は、被爆したあとも、差別や後遺症により、生きることが難しくても、生きることを諦めないでいることに、尊敬しました。田中さんが最後、私たちに、「平和でないと夢も叶わない」と言ってくれました。平和でないと、学校に行くこともできず、今、私たちが当たり前だと思っている生活も送ることもできないので、この言葉が一番印象に残りました。そして、平和になるためには、私たちが、優秀なリーダーを選ばなければなりません。優秀なリーダーを選ぶためには、勉強や政治を学んで、たくましい力を身につけることも大切だと言ってくれました。

広島被爆者体験講話聴講では、原爆が落ちたあとの生活や平和のためにすることなどを学びました。

２つ目に学んだことは、袋町小学校平和資料館を見学したときです。袋町小学校平和資料館には、黒板や、階段に家族を心配している親や、生徒を探している先生などが書いたと思われる文章がたくさんあり、胸が痛くなりました。原爆が落ちた日、８月６日の小学校は夏休みではなく、生徒や先生がたくさん居て「今日も、いつものように学校が始まる」という時に原爆が落とされました。袋町小学校は爆心地から460メートルという近いところにありましたが、旧西校舎のみ鉄筋コンクリート造りだったため、倒壊はしませんでした。しかし、約160名のうち、生存者は数名しかいませんでした。袋町小学校で学んだことは、原爆が落とされたあと、すぐに避難場所や救護所となり、黒板や階段の壁などに多くの伝言が残されたことです。そして、５月から、授業が再開されたそうです。

私は、広島派遣事業を通して、戦争の恐ろしさをより、深く知ることができました。戦争は二度と起こしてはならない、起こさないためには、優秀なリーダーを選び、誰も暴力などで命を落とさない、平和な世界にすることが大切だと思いました。そして、戦争の恐ろしさを忘れ去れないように、語り継ぐことも大切だと改めて思いました。

# 明日が来ることの幸せさ

大島　梨緒奈

私がこの地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業に参加したきっかけは、ロシアとウクライナが戦争を始めたことをニュースを通して知り、戦争に興味をもったからでした。

この事業を通して学んだことは戦争は二度と起こしてはいけないことと、平和の大切さです。

３日間にわたる事業の中で私が特に印象に残ったことは２つあります。

まず１つめは田中さんの被爆者体験講話です。このお話を聴いて、原爆が落とされたのは一瞬だとしても苦しさは永遠に続くことを理解しました。私は原爆を受けて生き残った方々のその後について考えたことがありませんでした。実際に被爆した人の話を聴いて、原爆病になり苦しみ続ける人がいることや被爆者差別を受けたことを知りました。

田中さんのお話のなかで、友人に言われた「原爆ってうつらないんだろ？」という言葉が私の心に刺さりました。一番辛い思いをした被爆者に対してそんな心ない言葉をかけるのはどうかと思いました。田中さんはその言葉をうけた後から被爆したことを隠したと言っていました。悪いのは全て原爆で被爆者は決して悪くないのに、被爆したことを隠したことに悲しくなりました。友人なら田中さんの気持ちを考え、共に苦しさを背負うべきだと思いました。

２つめは原爆の子の像に込められた思いと像を重ねて見たことです。像のモデルとなった佐々木禎子さんは被爆したものの奇跡的に助かり、原爆症になるまでは元気に成長していたそうです。この話を聴く前と後とでは像の見え方が違いました。これまでは身近に感じたことがなかった戦争ですが、自分よりも幼い子供達が亡くなったと考えると関係ないことではないんだと実感して急に恐ろしく感じました。

戦争・原爆は年齢に関係なく無惨に人を殺してしまいます。なかには戦争を理解することなく亡くなってしまった子もいるのでしょう。戦争をしていなかったら、原爆が落ちていなかったら、今の私達が想像しているようなことを想像し、平和な明日をむかえることができていたはずです。

私はこの事業に参加するまでは明日が来ることがこんなにも幸せなことだと分かっていませんでした。私達が想像する未来は平和でないと叶わないことで、私達は現在のような平和な社会を守っていかなくてはいけません。

そのために私は原爆を受けてもなお立ち上がって経験を伝えてくれた方々の思いを受けつぎ、これからの世代に語りついでいきたいです。

# 平和のために僕達が出来ること

保科　陽紀

僕は、8月4日から6日まで、東大和市・東村山市からの広島派遣事業に参加させていただく機会を得ました。この事業に応募した理由は、実際に被爆者の方の話を聞き、被爆者の方がどのような思いで今まで生きて来られたのかを知りたかったからです。

この事業に参加する前は、戦争について深く考えたことがありませんでした。でも、戦争について学び、実際に広島に行って被爆者の方の話を聞いたことで、僕の戦争や平和に対する思いが変わりました。特に印象に残ったことは、被爆者による体験講話です。

被爆者の田中聰司さんは、1歳半の時に被爆して、5人の家族のうち、4人が亡くなったそうです。被爆した後も、正体不明の病気に悩まされて来たそうです。それでも、田中さんは負けずに今も生きています。僕は、「なぜ、そんなに大変な目にあったのに、田中さんは自分から命を捨てなかったのか。」と思いました。もし、僕が77年前の広島に生きていて、田中さんのように被爆し、家族を失っていたら、生きる気力を失ってしまっただろうと思います。

僕は、それでも強く生きた田中さんが言った一言が、とても印象に残っています。それは、「平和でないと、何も叶わない。」という一言です。自分が生きている時代が戦争の時代だったら、まず生きることに必死で、勉強どころではないし、明日生きているかも分からない中で、将来の夢をもつことすらできないと思います。田中さんは僕に、「平和は全ての基本だ。」ということを気付かせてくれました。

僕にとっての平和は、大切な人と何気ないことで笑い合って、当たり前の暮らしが出来ることです。そして、生きることに苦しみを感じる人がいなくなり、だれもが人間らしく生きて行けることだと思います。また、将来の夢をもち、勉強やスポーツや趣味など、やりたいことに目標をもって打ち込むことができることだと思います。

そのような平和な世界になるためには、まず一人一人が戦争をすることや、核兵器の開発、実験、使用に反対し続けることが大切だと思います。そして、平和は自然にあるものではなく、多くの人の犠牲の上に成り立っていることを心にとめて、「平和を守る」という意識を常にもつことが大切だと思います。

次に、自分の意見だけでなく、他者の意見をよく聞き、大切にすることが重要だと思います。それは、他者の立場や気持ちを想像し、寄り添うことです。そうすれば、他者の事を自分の事に置きかえて考えることができます。そのような他者への思いやりの気持ちをもって、生きていきたいです。そして、もし他者と上手く意見が合わない時は、自分の意見と他者の意見を比べて、良いところや似ているところを見つけ出していけば良いのだと思います。

最後に、正しい方向に国民を導く、良い国の代表者を選ぶことも大事だと思います。決して武力ではなく、物事を話し合いで平和的に解決できる、国の代表者を選ぶことができるのは、他でもない自分達です。だから、政治に関心をもち、18才になったら必ず選挙に行きたいです。

戦争や核兵器をこの世からなくし、平和な世の中を守るためには、たくさんの人の力と努力が必要です。一人一人の力は小さいけれど、世界の人々と手を取り合い知恵や意見を出し合って、戦争や核兵器に対して反対の声を上げ続ければ、いつか必ず戦争や核兵器を世界からなくすことが出来ると思います。

僕は広島派遣事業に参加して、今までよりも真剣に戦争と平和について考えるようになりました。この経験から学んだことを普段の生活の中で実践し、世界の平和のために自分ができることを考え続けていきたいです。

最後に、僕にこのような貴重な経験をさせて下さり、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

# 地域の戦争・平和学習及び広島派遣で学んだこと

扇喜　亮汰

僕が、地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業に参加して学んだことは、７つあります。

１つ目は、旧日立航空機株式会社変電所の見学です。変電所には大きな穴がたくさんあり、中には厚さが約20センチメートルの壁を貫通した穴もありました。この穴は、爆風により吹き飛んだ石や銃弾によりできたものなんだそうです。ぼくは、この厚さの壁が貫通するというのは、きっと、とても速い石が飛んで来たんだなとびっくりしました。

２つ目は、広島にある本川小学校平和資料館の見学です。本格的なジオラマや、被爆したものなどがたくさんありました。ジオラマは、とてもリアルで、当時（原爆投下直後）の様子がよくわかりました。ジオラマの広島を見ただけでも恐ろしいと思ったのに、現実だったらもっともっと恐ろしいだろうと、原爆の恐ろしさを実感した気がしました。

３つ目は国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の見学です。祈念館には平和祈念・死没者追悼空間という死没者を追悼する空間がありました。追悼空間の真ん中には、原爆が投下された時刻の８時15分を表すモニュメントもありました。次に進むと、遺影コーナーという部屋に着きました。このコーナーには、原爆により亡くなった人々の遺影が大きなモニターに映し出されていて、こんなに多くの人が原爆により亡くなったと思うと、とても悲しくなりました。

４つ目は原爆ドームです。原爆ドームは外壁や骨組みだけになりながらも、戦争の悲惨さを物語っているように見えました。ぼくは、これからも原爆ドームを残し続け、色々な人に原爆の恐ろしさや戦争の悲惨さを語り継いでいってほしいと思いました。

５つ目は原爆の子の像です。原爆の子の像とは、２才で被爆した少女、佐々木禎子さんがモチーフになった石像です。禎子さんは２才で被爆し、奇跡的に生き残ったものの、放射性降下物に触れ、12才の時に白血病と診断されて入院しました。千羽鶴を折り、元気になれることを願いましたが、12才のまま亡くなりました。そんな悲報を聞いたクラスメイトや友達などが、禎子さんや原爆により亡くなった人々の霊を慰める石碑を作ろうと募金活動をして完成させたのが、原爆の子の像なのです。色々な人の思いが詰まった像は、禎子さんと同じように病気などで苦しんでいる人たちにも、きっと勇気を与えてくれるんだろうなと思いました。

６つ目は、広島平和記念資料館の見学です。資料館には、ホワイトパノラマというミニチュアの広島があり、原爆が落とされた直後の広島の様子が細かいところまでうかがえました。他にも、禎子さんが折った鶴や、所々血液が付着した亡くなった人の服や、黒く焦げたお弁当などもあり、とても胸が痛みました。

７つ目は、平和の灯です。平和の灯は、世界から核兵器がなくなるまで燃え続けるとされていて、1964年に点火されて以来、ずっと燃え続けているんだそうです。ぼくは、火が58年以上燃え続けているのは、原爆で亡くなった人や被爆した人たちの思いがこもっているからだと思いました。

ぼくは、この地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業に参加して、たくさんの事を学びました。学んだことを無駄にするのではなく、何か将来の事に役立てたいと思います。皆さんも是非、広島と原爆のこと、命の尊さや大切さ、戦争の悲惨さを知り、戦争と核兵器をこの世からなくし、平和な世の中を築くことに挑戦してみませんか。

# 忘れられない広島

鈴木　優生

ぼくは、地域の戦争について学び、3日間広島で過ごしました。地域の戦争では、変電所について学びました。変電所があった工場は、飛行機のエンジンを作っていたため、昔、戦争で狙われやすかったそうです。壁の厚さは約20センチメートルで、一部は、爆弾の小さな破片で貫通しているのもありました。それに、中の物にまで多く傷があります。よほど強い被害を受けた事が一目で分かります。でも、被害を受けたのは、東大和市だけではありません。東村山市もです。ぼくは、東大和市に住んでいるので、東村山市の戦争について考えた事はありませんでした。東村山市に、爆弾を落とされた理由は、東大和市に落とすための爆弾が余って、飛行機に乗せられないので、東大和市に近い東村山市に落とされました。悪い事をしてないのに、爆弾を落とされるなんて、腹が立ちました。

1日目に広島で一番印象に残ったのは、被爆者の田中聰司さんに被爆後の生活などを聞いた事です。田中聰司さんは、1歳5ヵ月という若さで、母にだっこされて逃げたそうです。運よく生きていて助かりましたが、1か月で家族5人の内、4人が亡くなったそうです。5人の内、4人が亡くなっただなんて、ぼくだったら立ち直れないと思いました。その他にも、いつも学校の給食は麦飯を食べていたそうです。春と秋に2回、苦い薬を飲んだそうです。それを飲むのに、1～2時間かかるそうです。ぼくたちがかぜの時に飲む薬は、1分もかからず飲めるのに、田中さんや被爆者の方が飲んでいたのは、よほど苦くて、よほど多かったという事が分かります。友達に「原爆の被害を受けたという事を言われて、心が傷ついた」という事も言っていました。このように、心にできた傷と体にできた傷は治らないのです。だから、戦争は多くの人の人生をこわしたり、苦しめたりします。でも、このように戦争の事を熱心に考えられるのは、戦争という過ちを犯したからです。こうして、被爆者の人たちに、話を聞けるのもあまりないです。だから、自分が学んだ事を次の世代に伝えていきたいです。

2日目に広島で一番印象に残ったのは、「原爆の子の像」の事です。原爆の子の像は、禎子さんを忘れないために作られた物です。禎子さんが、2歳の時に原爆が落ちて、家は崩されましたが、助かりました。しかし、禎子さんは、その時は運良く助かりましたが、6年生のころ、白血病だと分かりました。だから、禎子さんは、病気を治すために、千羽の鶴を折ろうと頑張りましたが、その思いは天に届かず、12歳で亡くなりました。それから、原爆で亡くなったすべての子どもをなぐさめるために作られました。毎年、平和を願う人が作ったたくさんの折り鶴が飾られています。ぼくも、原爆で亡くなった子どもたちの事を思い、丁寧に丁寧に、折り鶴を折りました。この思いが届くといいです。

3日目に広島で一番印象に残ったのは、平和祈念式典の事です。式典では、黙とうをしました。ぼくは、日本に住んでいる人しか、式典には参加しないと思っていましたが、外国人や障害者やお年寄りまで式典に出ていました。他には、子どもも話していました。その人たちは、「あなたにとって平和とは、何ですか」と言っていました。ぼくにとって平和とは、大切な人と一緒に過ごす事です。だから、ぼくは今、幸せです。でも、世界にはまだ、平和ではない国もあります。そういう人を幸せにできるようにしていきたいです。ぼくは、地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業を通して、多くの事を学びました。勉強の他にも、広島焼きを食べたり、仲間たちとホテルで過ごすことができて思い出に残りました。このように、本当にこの企画に参加して良かったと思います。

## Cグループ

# 自分が行動

内山　あゆ美

私はこの広島派遣事業に参加する前は戦争は起こらないから、誰かが戦争の悲惨さを伝えてくれるからと、どこか他人任せになっていました。

広島派遣事業に参加してみると、そこでは想像以上に戦争の怖さを実感することができました。

被爆者体験講話では、実際に体験しないとわからない戦争のことを教えてくれました。例えば、苦い薬をもらっていたり、甘いものがない時代、ユニセフから粉ミルクをもらい、それを飲んでいたことなどを教えてくれました。そのなかで私が一番心に残ったのは、「原爆は昔の話ではない」という言葉です。原爆は昔でもなく今でも起こっているということに気が付くことができました。私は被爆者体験講話で、私たちが原爆をなくすために立派な人間にならなければならない、ということを実感することができました。

原爆ドームでは、昔は市民の集いの場所だということを知ることができました。また、原爆ドームは被害に合う前は窓が多かったため、爆風が一か所に集まらなかったものの、館内にいた全員が即死してしまったそうです。私は原爆ドームを見て、すごく衝撃をうけました。原爆ドームの周りだけ時が止まっているように見えたからです。私は、多くの大切な人の未来を奪った原爆はもう絶対に使ってはいけないと思ったし、原爆ドームは平和の象徴として、これからもずっと残していかなければならないな、と強く思いました。

平和記念資料館では、焼け焦げたお弁当、血の付いたボロボロの服、佐々木禎子さんが折った折り鶴など、見ているだけで息苦しくなるようなものばかりでした。なかには目をそむけたくなるような展示物もありました。しかし、その一つ一つの展示物には、被爆した方々の苦しい思い、悲しさ、つらい思いなどを私たちに訴えるようにも感じました。また、被爆した直後はこれよりも悲惨な状況が広がっていたと思うと、とても胸が苦しくなります。私は平和記念資料館を見て、原爆の怖さを伝えて、どれほど原爆というものが恐ろしいのか、ということを一人でも多くの人にたちに分かってもらいたいなと思いました。

３日間、広島に行ってみて、戦争の怖さなどを学ぶことができました。広島で戦争のことについて学んでいるうちに、最初は他人任せになっていた気持ちが変わりました。被爆者の方でもなく、親でもなく、自分が行動しなければ世界は変わらないなと思いました。今でも、戦争のことについて考えるのは怖いです。しかし、戦争について考えるということは同時に、平和について考えることでもあります。そのことを胸に戦争について考えてみてください。そうすることによって、私たちの次の世代の子が、今よりも明るい未来が送れるのです。まずは自分が行動。原爆によって被爆した人たちは、そのことを教えてくれたようにも感じます。

# 改めて気づく原爆と戦争の恐ろしさ

松井　翔亮

僕は８月４日から６日まで広島に研修に行かせていただきました。原爆の恐ろしさや自分と同世代の人がどんな想いをしていたかをテーマにしました。

そこには原子爆弾でたくさんの命を落とした人の話や、その周りの家族の話など、聞いてみて思ったこと、感じたことがたくさんありました。

まず、被爆をした方の中には、差別をされたり後遺症で苦しんだりした人もたくさんいることが分かりました。自分も同じ気持ちになって考えてみると、とても胸の中が苦しくなりました。それは、奇跡的に助かったとしても、その１時間後に発生した黒い雨などの被害に遭い、その後に髪が抜け落ちてしまったり、身体中に痛痒い斑点ができたりと、大変な思いをしたことが分かったからです。さらに悲しいことに、上京しても広島出身だということだけで「原爆って実際どうだった？」「この人の近くにいたら原爆の後遺症がうつる」などという差別が広がり、その後の人生も大変苦労していたとのことでした。

自分もそんな差別を受けたらどうだろうかと考えました。さらに好きな場所にも行けない、好きな仕事にもつけないと考えると胸が痛みました。

けれど広島は、100年間人が住めない場所になるだろうと言われていたのに、原爆が投下された２日後には、路面電車が運転を再開し、10日後には、送水ポンプの稼働が再開し、さらには原爆の被害に打ちひしがれた広島の街に、希望の光を与えるために広島東洋カープが創設されました。今では中国地方で１番大きな都市になった事を知り、僕は「なんでこんなにも早く再開できたのだろうか？」と驚きました。僕は、「人々が希望を持って頑張れば、どんなことも乗り越えられるのだ！」と思いました。

今、ウクライナとロシアとの間で戦争が起きています。また人同士が殺し合っているのです。戦争で家を失う人や、飢餓で苦しむ同世代の子供たちがいるのです。僕は広島と同じ事が、また同じ地球で起きていることを考えると、とても胸が苦しい気持ちになるし、どうすれば紛争がなくなるのか？と考えました。

当時１歳で被爆した田中さんの話には、こうすれば戦争や争いがなくなるのだという言葉がありました。

質問者「どうすれば争いや戦争は無くなりますか？」

田中さん「いい質問ですね。やはり一人で戦争を止めることは無理なのです。だからいいリーダーを決めること。選挙などでみんなの力を一つにすれば、良いリーダーを決められるのではないかな。」

僕はこの言葉を聞いてから、若い人もいいリーダーを決めるために、積極的に選挙に参加すればいいのにな、と思いました。

広島の原子爆弾は、たくさんの人の命を奪ったけれど、それと同時に原子爆弾の恐ろしさや平和の大切さを人々に知らしめました。日本人に、そして世界中に向けて、平和の大切さを改めて認識させるよう、この世界遺産や体験談を過去のものとして取り扱うのではなく、今現在も続いているものとして引き継いでいけたらと思いました。

僕はこの夏休み、とてもいい経験、そして勉強をしてきました。

# 広島に行って

小島　椋太

ぼくは、広島に行くことにとても関心を抱いていました。1日目に東村山の駅前で地域の戦争・平和学習を共にしたみんなに会えたことはとても嬉しかったです。新幹線に乗っているときは、同じ鉄道好きの加藤君とカメラで窓の外の景色や鉄道をとったり、車掌さんと話していたりしました。いざ、広島に着いたときは何もかもが新しい経験だったのでとてもわくわくしました。天気は晴れ。まるで自分達を快く歓迎してくれるようでした。青少年センターに向かうとき「なんてきれいな町なのだろう」と思いました。青少年センターでは、田中聰司さんに体験講話を話してもらいました。話を聞いて広島の事実を知り、感じたことがたくさんありました。印象に残ったのは、「戦争は二度と起こしてはいけない」という言葉です。あの日、広島で起こった悲惨な出来事はくり返してはいけないということです。被爆者の平均年齢が84歳を超えた中、貴重な体験をさせていただくことができました。夜ごはんを食べ、ホテルに着き、気づいたらもう11時で寝るしたくをしました。窓を見たら、夜景がとてもきれいで、目に焼きつけたのは覚えています。朝起きて、最初に行ったのは袋町小学校平和資料館です。ここで印象に残ったのは、壁や黒板にチョークで書かれた伝言です。壁を使い、家族などの安否の確認をしていたのだと思いました。次は、自分の中で最も興味深かった原爆ドームです。見たときは、この大きな建物を壊す程、原爆の恐ろしさがうかがえました。やはり、テレビで見るのと実際に見てみるのとでは大きく違いました。次に、原爆の子の像と、爆心地の島病院に行きました。原爆の子の像を見たとき、大量の鶴があり、その量にとてもおどろきました。また、病気と戦い続けた禎子さんの勇気は、すごいと思いました。次に、爆心地の島病院を見ました。そこで空を見上げ、上空600メートルでさく裂した瞬間を想像して、原爆のすさまじさを感じました。次に、本川小学校平和資料館に行きました。本川小は、爆心地から最も近い小学校で、生き残ったのは、生徒たった1人だけだったそうです。ここで印象に残ったのは、「安らかに眠ってください過ちはくり返しませぬから」という言葉です。これは原爆死没者慰霊碑に書いてある言葉です。この言葉は、田中さんが言っていたことと重なると思いました。昼ごはんを食べて、次に向かったのは、広島城です。広島城は、もともと毛利家が造った城で、天守閣がとても美しかったです。次は、楽しみにしていたお好み焼きです。外はカリカリで中はやわらかいお好み焼きは、2日目の疲労を吹き飛ばしてくれました。3日目の朝、8月6日がやってきました。最初は式典に参列しました。印象に残ったのは、子ども代表の平和への誓いです。中でも、「本当の強さを持てば戦争は起こらないはず」という言葉が印象に残っています。次に行ったのが、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館です。印象に残ったのは遺影コーナーです。理由は、たくさんの人が命を落としたことが一目で分かったからです。次に向かったのは、広島平和記念資料館です。資料館は、3日目で一番印象に残った場所でもありました。ぼくの祖父も資料館に行ったことがあるそうで、印象に残ったのが、人影の石だそうです。ぼくも、それを見て衝撃的でした。また、伸一くんの三輪車や滋くんの弁当箱など、遺品一つ一つに思いが込められていて、胸が苦しくなりました。8月6日に起こったことは、決して忘れてはいけないし、きのこ雲から学ばなければいけません。広島派遣を通して、被爆者から学んできたことを身近な人に伝え、平和な未来を創っていきたいです。今回の研修でお世話になった方々にとても感謝しています。

# 地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業では

平山　優月

私は地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業に参加してみて、感想を5つ持ちました。

1つ目は、同じ学校、市ではない人と協力して生活したり学んだりするので学校ではできない経験ができるのでとてもいい経験だったのではないかと思いました。はじめて会う人といっしょに勉強をしたり、暮らしたりするのが私ははじめとても不安でしたが、はじめて会う大人の方もとても優しく、友達をつくることも出来たのでとてもこの先に活かせる経験だと思いました。

2つ目は、学校で習わない自分の住んでいる地域の戦争や、原子爆弾のくわしいことなどを知ることができるので、まわりの友達に教えたり、大人にも教えることができるので少し大人になったように思いました。大人でも知らないことを知っていると小学校で感じる以上に成長を感じることができるのでとても勉強が楽しいなぁと思ったので大人に少し近づいたなぁと思いました。

3つ目は、本などでは分からない細かい部分にも気が付けるのでくわしいことや、戦争の被害の大きさがさらに伝わってくるので行ってみないと分からないんだなぁと思い、行った方が絶対に知らないことを知れると思いました。なぜなら、本で見た滋君のお弁当の中身は炭になって残っているなんて分からなかったし、亡くなった方のお洋服などには所々血液がついていたりなどのことが分かったからです。

4つ目は、原爆は被爆された方の体だけでなく、心にも傷を負わせてしまったんだと思いました。被爆された方はまず、爆風ややけどなどで体に傷を負ってしまいました。そして、家族が亡くなってしまったり、体の傷や後遺症で友達などから差別をされてしまったことで、心に傷を負ってしまいました。なので私は、被爆された方はたくさんの傷を負わされてしまったのだと思いました。

最後に私はこの事業に参加してよかったと思いました。なぜなら、私は初めなぜ戦争が始まったのかも知りませんでした。ですがこの事業に参加したことにより戦争とは昔話ではなく今も起こっていて、それを伝えていくのが私の役割なのだと思いました。この事業で学んだことをたくさんの人に伝えていきたいです。

# 僕の平和宣言

吉村　朝陽

僕は、広島派遣で色々なことを学びました。そして戦争は本当にやってはいけないことと、平和の尊さを知りました。

1945年（昭和20年）8月6日午前8時15分に原爆が広島に投下され、たくさんの建物が吹き飛び、人々の命が亡くなりました。

広島派遣の1日目は被爆者体験講話で、小さい頃に被爆された、田中聰司さんに被爆当時の話を聞きに行きました。田中さんは、小さい頃に被爆しましたが、運良く助かり暮らしていましたが口の中にできものができて、それが11才まで分からずに苦しんでいました。口のできものは「がん」だとわかり、手術や入院を何回も繰り返して、治ったときにはつばと大きい声が出せなくなってしまいました。田中さんは原爆投下当時、家族の内4人が亡くなってしまいました。田中さんは学校に行くことができましたが、学校に通う途中に靴磨きをしている子供を何人も見たそうです。僕は広島派遣に行く前にアンケートに答えました。その中に「あなたにとって平和とはなんですか。」という質問がありました。僕は「誰もが幸せに暮らせる世界」と回答しました。 そして田中さんと自分の意見を比べたくなり、僕は、「田中さんにとって平和とは何ですか。」という質問をしていました。すると田中さんは、「例えばお金持ちであってもお金持ちではなくても、普段の生活で幸せだなと感じる時」と答えました。 僕は、「幸せ」という部分が似ているな、そして、「幸せを思うことは大切なんだな」と思いました。

2日目は原爆ドームを見に行きました。 原爆は爆心地から約2キロメートルの建物、人々を爆風と4000度の熱で焼きつくしました。 被爆で体の皮膚が溶けたり、ケロイドが残っていたり田中さんのように、放射能をあびて後遺症が残ったりした人もたくさんいます。これだけ長く人を苦しませる戦争や核兵器は二度となくさなければいけないなと思いました。 原爆ドームの近くにある「原爆の子の像」も見に行きました。原爆の子の像のモデルは「佐々木禎子」さんです。禎子さんは2歳の時に被爆しましたが、けがはなく元気に育ちました。ですが9年後後遺症が残り白血病と診断され病院に入院しました。 そんな中、「千羽鶴を折れば願いが叶う」と知った禎子さんは回復を願って薬の包み紙で折っていましたが、折り終わる前に12才で亡くなってしまいました。その後、学校のクラスメイトが禎子さんの死を悲しみ葬式にたくさんの鶴をそえて葬りました。 そして禎子さんの死から2年後、たくさんの人の協力で原爆の子の像が完成しました。僕は田中さん以外のたくさんの人も、後遺症だったと知った時は胸が苦しくなりました。そして本当に戦争はやってはいけないことだと実感しました。

僕にとっての平和は、幸せになる時を考え、それが実現されることです。そして学んだことをたくさんの人に話し受けついでいきたいです。

## D グループ

# 今でも続く戦争と未来の平和

渡辺　優芽

戦争は恐ろしく、もう二度とあってはならないものということを今回の学習であらためて感じることができました。

私は戦争というと広島や長崎での原爆のイメージが強かったです。ですが自分たちの身近な地域でも戦争があり、たくさんの人が亡くなったことを知りました。戦争は遠いものではなかったと気づけました。

広島での学習では３日間という短い間でしたがたくさんのことを学び、感じることができました。

爆心地から最も近かった本川小学校では先生も含めてたった２人しか生き残ることができなかったそうです。生徒としてたった１人生き残った方の話が残っていました。仲良しだった友達もみんな亡くなり、真っ黒こげになった同級生が私の名前を呼びながら近づいて来たと書いてありました。もし自分がその立場だったらと考えるだけでも苦しく思います。また、実際に被爆された田中さんのお話も聞きました。１ケ月の内に４人もの親戚の方が亡くなったそうです。田中さんはお母さんとお母さんの妹を探すために何度も何度も焼け野原を歩き回ったそうです。生きることも難しかった中何とか家族を見つけようとしていたと思うと心が苦しくなりました。また、食べ物でも苦しい生活をしていたようです。ですが食べものがなかった中でも自然に思いやりが生まれたそうです。みんなが苦しんでいた時に助け合っていたことに感動しました。田中さんは今、たくさんの病気と闘っています。これも原爆が原因です。そして被爆者は今でも差別があります。このことから戦争は昔のことではなくて今でも続いていることだと強く感じました。同時に生きていくことでさえも苦しく辛いことだったと気づきました。

原爆ドームの近くには原爆の子の像があります。そこにはたくさんの折り鶴が飾られています。原爆で白血病になってしまい亡くなってしまった禎子さんの「もっと生きたい」「学校に行きたい」そんな思いがこめられています。私は禎子さんの分まで一生懸命生きて学校に行って平和を築いていきたいと思いました。

今回の学習で私は戦争はまだ続いている、ということが強く心に響きました。私たちが今戦争や平和について学び、感じることができているのはこの戦争があったからかもしれません。だからこそ辛い過去を未来の平和に繋げていかなければならないと思います。これからは私たちが次の世代へ伝えていく番です。身近な家族そして友達からでも戦争の恐ろしさそして平和の尊さを伝えていきたいです。この事業に参加することができて本当によかったです。ありがとうございました。

# 戦争の恐ろしさを学んで

懸谷　千穂

私はこの夏に地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業に参加することを決めた。理由は実際に原爆の被害の大きさを見たいのと、戦争の恐ろしさをもっと詳しく知りたかったからだ。

事前学習では被爆石モニュメントについて初めて知った。長崎県の山里小学校の校舎の壁の一部だと知り、原爆の威力は相当凄いと感じた。そしてこんな身近に原爆の威力が一目で分かる物があることに驚き色々な人にも伝えようと思った。

駅から出て広島の様子を見て本当にここが原爆が落ちた場所なのか信じられなかった。広島に来てすぐに１歳で被爆した田中聰司さんが話をしてくださった。田中さんは、闇市の食べ物を盗んだりしたことがあるそうだ。戦争が終わっても食べ物がなくて苦しかったことを知り私は耐えられないと思った。広島駅では、たくさんの少年達がくつ磨きをして働いていたそうだ。この子達は悲しい気持ちをしまいこみ苦しい中頑張ったんだなと感じた。現在田中さんは５つのがんを患っている。77年前の１歳で受けた傷が今でも残っていることに恐ろしさを感じた。

２日目に行った袋町小学校は階段の壁に書いてある伝言が印象的だった。VTRで遺族の方が「よく書いたなあ」と言っていて子どもを探す伝言を書くのは苦しかっただろうと感じた。伝言を科学の力で細かく見られるようになったおかげで亡くなってしまった人が生きていた証として遺族の方が見られてよかったと思った。

原爆の子の像は原爆による白血病で亡くなってしまった佐々木禎子さんがモデル。入院中は包み紙などで鶴を折り続け、つらい闘病生活を乗りこえたそうだ。禎子さんの死をきっかけに、クラスメイト達が原爆で亡くなった子どもたちの霊を慰め平和を築くための像をつくろうと運動が始まったそうだ。私にはこんなことできるだろうか。本当にお金が集まるか分からないし反対されることも考えて諦めてしまうと思う。なのでこのクラスメイト達は勇気があって凄いと感じた。

広島平和記念資料館では亡くなってしまった一人一人の人生が物語っていた。全身やけどをした人や原爆が落とされた直後の状況、戦争がどんなにひどいものか感じとれた。特に印像に残っているものが２つある。１つめは顔に大きなやけどをしていて皮膚がただれている少女の写真だ。その少女は10年後、別人のように美しい女性へと変わっていて驚いた。だがその女性は49歳でがんで亡くなってしまった。せっかく生き残ったのに短い人生になってしまうのはとても悲しい気持ちになった。２つめはお昼ごはんに食べようとしていた、滋君の焼けこげてしまったお弁当だ。中には家の畑で初めてとれた野菜が入っていたそうだ。私も新幹線で滋君弁当を食べ、当時の食生活が今とどれほど違うのかを感じた。また少し質素ではあったけどとてもおいしく、滋君も食べたかっただろうなと思った。滋くんも戦争さえなければ私達と変わらない生活ができたんだなと思うと切なくなった。

最初に見た原爆ドームは広島の一部として普通に見られたが、最後に見た原爆ドームはそこだけ時が止まっているように見えて恐怖心を覚えた。そしてこれからも原爆の恐ろしさを伝える物としてずっと残していきたいと思う。まだ戦争は終わってない。なので私はこれから戦争などに苦しんでいる人にお金を寄付したり平和について考え行動していきたい。そして大人になったら選挙など積極的に取り組んだり、後世に戦争の恐ろしさを伝えたりと社会の一員として世界が平和にできるように取り組みたい。

# 忘れてはいけない戦争

下山田　悠人

一番最初の学習の被爆石モニュメントは、爆心地から約600メートル離れたところにあった長崎市立山里小学校の壁の石だということを知りました。爆心地から約600メートル離れていたところでも、壁が吹き飛んでしまったということは、とても威力が強かったということが考えられました。

2つ目の学習の東村山ふるさと歴史館では、いろいろ学びました。その中で東京陸軍少年通信兵学校では、何をしていたのかなども学びました。1つ目はモールス通信を勉強していたことを知りました。2つ目は、B29の大きさは、その学校の校庭ぐらいの大きさだということです。3つ目は、その学校は、ごはんと寝る所が無料であり、給料がもらえるから、行く人が多かったということを知りました。4つ目は落とされた爆弾の大きさは大人くらい大きかったことを知りました。ぼくは、もしそれが自分に直撃したら、命は無かっただろうなと思いました。

3つ目の学習の「沈黙の証言者～私たちのまちは戦場だった～」というビデオで、旧日立航空機株式会社変電所に勤務していた人達の戦争体験が分かりました。その中でも2人目の人が言っていた、「もし防空壕にまともに入っていたら爆弾が直撃したから死んでいた。」ということを聞いて、もし自分が中に入っていたらと考えると、とても怖くなりました。

最後の学習の旧日立航空機株式会社変電所を見学して、大きな穴がいろいろな所にあるのが分かりました。そして空襲したアメリカの戦闘機の詳しいことも分かりました。あと、話を聞いて、変電所を残すために、1億3000万円をかけたということが分かりました。ぼくは、そんな大金をかけるということは、それほど大切で大事なんだなと思いました。

7月29日の学習のまとめで、身近な地域は戦争と関係がないと思っていたけれど、ビデオを見て、話を聞いて、身近な地域と戦争の関わりが分かりました。

広島での学習の最初の被爆者体験講話では、昔の子ども達がしていたことなどを聞きました。1つ目は、子どもが店から食べ物を盗んだということです。2つ目は、子ども達は、苦い薬を1時間かけて飲み、全て飲まないと帰れないということを聞きました。3つ目は、お話を聞いた被爆者のかたが家族を1か月で4人も失ってしまったと聞きました。ぼくは、4人を失ったと聞いて、たった1か月で家族を4人も失ってしまうなんて、ぼくだったら二度と立ち直れないと思いました。

2つ目の学習の袋町小学校では、最初はビデオを見ました。ビデオを見て、壁にある伝言のことが分かりました。そして、朝礼を終えた児童、教職員160人の中のほとんどが犠牲になったことを知りました。

3つ目の学習は原爆ドームを見ました。ぼくは原爆ドームを見て、前はとても大きな建物だったのに、一発の爆弾で骨組しか残らないなんて原爆は恐ろしいと思いました。

4つ目の学習の原爆の子の像では、モデルとなった少女のことを学びました。少女の名前は佐々木禎子さんで、被爆して亡くなったことを知りました。2歳の時に被爆して、12歳で白血病だと分かり、回復を願い、折り鶴を折りましたが、12歳で亡くなったということを知りました。

5つ目の学習の本川小学校では、爆心地に一番近い学校で、約400人の生徒と教職員のほとんどが犠牲になったことを知りました。ぼくはそれを知って約400人が原爆で死んでしまうなんて二度と落としてはいけないと思いました。

最後の広島平和記念資料館では、ボロボロの自転車や、血のついた服など、胸が苦しくなるような写真がたくさんありました。ぼくは写真を見て、こういうことが起こらないように戦争はあってはいけないなと思いました。

今回広島へ行って悲しいことや、ひどいことを起こさないために、戦争は絶対にあってはいけないし、忘れてはいけないと思いました。

# 平和学習を終えて

加藤　煌誉

今回両親の強い勧めと自分自身の深い関心でこの企画に参加しました。

広島派遣を通じて、戦争を知らないまま動画や本の中の世界だけの出来事として捉える事のないよう、関心を抱いた僕らが平和の尊さと戦争の怖さを訴えていかなければならないと思いました。学習会の後もディスカッションを繰り返し、学びを深く掘り下げていくのが良いのではないか、そこから得た事を学校のみんなと共有し、広める活動を行うのがよいのではないか。

さらに、平和について学習を重ねることで、語り部の人々の後継者になりたいです。僕はこの学習が始まってから、戦争と平和についてより考えるようになりました。誰かがリーダーシップを取ることで、みんなと共に平和を考える時間が増え、それがすごく当たり前の課題であり責任になれば、もっと世界は変われると思います。

広島派遣に行って、広島はずいぶん都会だという印象でした。原爆が投下された時代もやはり今と同様ににぎやかだったようです。原爆投下による影響、被害はとても大きかったに違いありません。特に、僕は平和記念資料館で見たＣＧ映像が怖くて忘れられません。これは特に世界中の人に知ってもらいたい展示物の１つです。

それからクラスの皆などに話してあげたいと感じたのは、実体験の聴講や記録映像鑑賞についてです。他にも世界から核兵器が根絶した時に消える平和の灯のエピソードも興味深かったです。

平和学習を通じて、平和の尊さについて学んだ一方、作ってしまった核を手放す事は難しいのではないかと思いました。なぜならば、保有各国は核兵器の所有数で武力の大きさを誇示し、事実上それで戦争を抑止している国もあるからです。

しかし家族にその思いを話したところ、父からそれは違うと言われました。「核は、持つ事だけでも許されてはならない。犠牲者をこれ以上増やしてはならない。」世界には核兵器を処分した国があるのです。だからみんな一生懸命活動しているのです。広島派遣事業から帰ったとき、東大和市駅の横で核兵器廃絶についての署名活動が行われていた事を母から聞きました。自分も大きくなったらそんな活動に協力したいと感じました。

ですが、署名活動や戦争の被害、平和の大切さを学ぶだけで良いのではありません。学び得た知識で有事に備えることも大切です。核兵器を使わずとも紛争地域は世界にたくさんあります。原爆でも銃撃でも、戦いは人々を悲しませるに違いありません。核保有国に囲まれている日本。そしてウクライナへの軍事侵攻で再び核兵器投下の危機にさらされている今だからこそ平和を祈るだけではなく、実際の行動が必要とされているのです。教えてもらうのではなく、自分から学んでいくことが大切です。

辛い記憶でありながら思い出し、何度も話してくれるお年寄り、語り部の方々は年々減少しています。未来を生きゆく僕らに１つでも多く伝え残そうと頑張ってくださっています。それはきっと想像以上に心苦しい行動なのではないのでしょうか。その姿に僕の心も突き動かされました。戦争のトラウマを抱えながら語り部活動をしてくださるお年寄りに心から深々とお礼を言いたいです。

世界中から戦争がなくなっても僕は学ぶのを止めません。平和について考えることも皆止めてはならないのです。戦争は、家族や生活を引きさき、人々は家や病院を失い大切な物を次々と奪います。この美しい地球の戦争と核兵器をゼロにするのは僕達です。

これが広島で見た惨劇から学び得たことです。そして最後に、平和学習をする機会を与えてくださり本当にありがとうございました。

# 平和学習に参加して

森本　実彩希

私は、7月29日と8月4,5,6日に、東大和市・東村山市地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業に参加しました。

地域の戦争・平和学習で私が一番印象に残った場所は、東大和市の旧日立航空機株式会社変電所です。昭和20年2月と4月に合計で1800発あまりの爆弾がこの変電所に投下され工場のほとんどが壊されてしまい、111人の大切な命が奪われてしまいました。亡くなった人の中には若い人も多く、その時死なずに生きていれば、幸せな人生を送っていたのかもしれないと思いました。そして、そのような場所が私の住んでいる家の近くにあることに驚きました。

次に、広島県での戦争・平和学習で、印象に残った場所は、平和記念公園にある原爆の子の像です。像のモデルとなっている禎子さんは、2才の時、原子爆弾に被爆して、その時は死なずにすみましたが、9年後に放射能の影響で白血病になってしまいました。そのため自分のやりたいことができなくなり、亡くなってしまいました。この禎子さんの死をきっかけに、原爆によって亡くなってしまった子供達の霊を慰め、平和を築くための象徴となるような像を作ろうという運動が始まり、全国からの募金が多く集まり、この像を作ったそうです。禎子さんは、原爆のせいで中学校に通うという自分の夢をかなえることができなくなってしまいとても悲しかっただろうし、悔しかっただろうなと思うと、自分と年も近く、とても悲しい気持ちになりました。

もう一つ広島県で印象に残ったところは、平和記念資料館です。原爆は一瞬にして広島の町や家族、そしてその人達のたくさんの幸せを奪いました。そして生き残った人の体や心にもたくさんの傷を負いました。資料館には多くの亡くなった人達の大切にしていた遺品が展示されており、遺品を見ていると亡くなった人達一人一人に家族や生活があったのだろうと想像ができて、とても心が苦しくなりました。

私は、この地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業に参加して、たくさんのことを学び考えることができました。

まず一つは、私の住む東大和市でも爆弾の被害が実際にあり、そのことを忘れないために変電所が保存されていることを知りました。もし万が一日本で戦争が起こったら同じように自分や自分の大切な人の命が危なくなることがあるかもしれないと思いました。次に、原爆により一瞬で約14万人の人が死に、その後も放射能の影響で、多くの人が長い間苦しみ続けたことを知りました。このことから私は、日本と世界がいつまでも平和であって欲しい、二度と原爆を使わないで欲しいと強く思いました。自分が見て、感じたことを学校の友達にも話してみようと思いました。

# 7 参加者アンケート

## アンケートの目的

「平和」や「地域の戦争」、「広島」について、それぞれの考えがどのように変化するかを知るために、参加者20人に事業の実施前と実施後にアンケート調査を行いました。

## アンケートの結果

＊回答者数は、複数回答したかたがいるため、合計が参加者数と一致していない場合があります。

### 実施前 本事業に参加を決めた理由 (単位：人)

| | |
|---|---|
| 平和を学習したいから | 15 |
| 広島に行きたいから | 3 |
| 親に勧められたから | 1 |
| 友人に誘われたから | 0 |
| その他 | 1 |

●「たずねびと」で習ったことをさらに詳しく知るチャンスだったから

### 実施前 広島派遣事業で最も興味がある内容は (単位：人)

| | |
|---|---|
| 広島被爆者体験講話聴講 | 5 |
| 平和記念式典 | 1 |
| 袋町小学校平和資料館 | 0 |
| 本川小学校平和資料館 | 0 |
| 原爆ドーム | 10 |
| 広島城 | 2 |
| 広島平和記念資料館 | 3 |
| 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館 | 1 |
| 原爆の子の像 | 0 |
| そ　の　他 | 0 |

### 実施後 広島派遣事業で最も興味深かった内容は (単位：人)

| | |
|---|---|
| 広島被爆者体験講話聴講 | 5 |
| 平和記念式典 | 2 |
| 袋町小学校平和資料館 | 1 |
| 本川小学校平和資料館 | 0 |
| 原爆ドーム | 0 |
| 広島城 | 0 |
| 広島平和記念資料館 | 12 |
| 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館 | 0 |
| 原爆の子の像 | 1 |
| そ　の　他 | 0 |

本事業に参加した理由としては、「平和を学習したいから」が最も多く15人の回答を得ました。また、小学校の国語の授業のなかで、広島の原爆被害を描いた『たずねびと』という物語を読み、平和について関心を持ったという参加者もいました。

広島派遣事業で最も興味がある内容については、テレビ等メディアで目にすることも多い原爆ドームが最も多くの回答を得ました。派遣後のアンケートでは、最終日に訪問し、焼け焦げたお弁当箱や三輪車などの有名な資料が多く展示されていた広島平和記念資料館が最多の回答を得ました。

## 実施前 本事業で何を学び、何を得たいか

（単位：人）

| | |
|---|---|
| 戦争の悲惨さ | 18 |
| 命の大切さ | 15 |
| 平和を守ることの重要性 | 17 |
| 自分の目で見て感じることの重要性 | 10 |
| 同世代の参加者との意見交換による気づき | 4 |
| 平和学習に参加して感じたことを作文にまとめる力 | 3 |
| その他 | 0 |

## 実施前 事業に対する意見など

この平和学習の機会を作って下さったことに感謝し、広島に実際に行かないと学べないことを学び、平和や戦争についてより深く考えたいと思っています。これから少しの間ですが、よろしくお願いします。

私はまったく広島のことも第２次世界大戦のことについても知りません。なので、どんなことから知ればいいのか不安ですが、あらかじめ、本などで基本を調べておいていきたいと思っています。初めてなので上手くいくかはわかりませんが、よろしくおねがいいたします。

このような機会をくださり、ありがとうございます。楽しみにしています。

一生懸命に頑張って学んで、戦争を伝えられるような人になりたいです。

楽しみです。一生懸命がんばります。よろしくおねがいします。

よろしくお願いします。

毎年参加したいです。

この勉強を通して僕たちは１人でも多くの人に平和の大切さ、原爆の恐ろしさを伝える必要があると思います。原子爆弾がどれだけ恐ろしい結果をもたらすか、それをロシアの人や世界中の人に教えてあげたい。日本の人々は唯一の被爆国として、この悲しい事実を全ての人が詳しく知るべきだと思います。僕もお母さんも広島出身ですが、毎年広島の平和記念日と長崎の原爆の日に必ず原爆投下の時刻にあわせて黙祷をしています。僕は小さい頃からそれをしていた記憶がありますが、成長するにつれて話を聞いたり火垂るの墓を見せてもらったりして少しずつ怖さを知るようになりました。今回の学習で更に理解を深めたいと思っています。

## 実施後 地域の戦争・平和学習会（東大和市・東村山市）に参加し、身近な地域での戦争について実際に学んだ感想

今までは戦争を身近なものとして考えていなかったけれど、今回実際に学んでみて、今私が住んでいるこの東大和市でも戦争が起きていたことを実感することが出来ました。

戦争というのは、自分から遠い物ではなくて身近な地域にも戦争があって変電所などの建物はその証としてずっと残っていてほしいと思った。

77年前にこんなことが…と改めて知ることができて良かった。

自分達が住む地域や周りの地域でも戦争があった事が分かりました。その時の人達は、大変だと思いました。私達の地域でも亡くなった人がいたことを知りました。怖いなと思いました。

自分の住んでいる地域でも戦場と化していたことを知り、一気に他人ごとではなく自分ごとなのだなと思いました。

戦争により、家の近くにも爆弾が落とされ、大きな被害があった。

最初は、戦争は昔のことで、私には関係がないことだと思っていたが、東村山市、東大和市にも、戦争の跡がたくさんあり、戦争は昔だけではなく、今も、起こしてはいけないと訴え続けているんだなと思った。

思っていた以上に戦争と核兵器は恐ろしく平和な時代に産まれてきて良かったと思った。戦争を実際に体験した人からのお話はリアルでとても怖かった。

戦争をすることで家族や友人を失ってしまうこと。当たり前の暮らしの大切さ。戦争は決して昔話ではなく、今も起こっていること。ニュースでは報道されていなくても、まだ今、この瞬間も紛争や小さな戦争が続いていること。

あたり前に幸せに暮らしている事の大切さ。戦争のこわさ。変電所の大切さ。

身近な地域でも戦争があったことがわかった。核兵器の怖さがよく学べた。

自分の住んでいる地域でも軍の施設があったことを知り信じられなかった。すぐ近くに空襲の被害が分かる建物があるということを知らなかったので色々な人に伝えたい。

広島と長崎だけに戦争があったと思っていたけど、身近にも大きい戦争があったことを知って、びっくりした。特に近い秋津にB29が落とされたことにびっくりした。

罪のない東村山、東大和の人たちに向けて爆弾を落としていたことに対してとても腹が立った。

身近な地域には、戦争とは関係していないと思ったけれど、被爆石モニュメントなどのことで関係していてびっくりしました。

戦争のイメージは広島がとても強かったけど、身近な地域でもたくさんの人が亡くなったことを知ることができました。戦争は遠いものではなかったと感じました。

身近な地域にも戦争があったということを知ることができた。

原爆が投下されて間もない場所でも戦争の被害はあり、人々が命を落とし犠牲になっていたことを知り一層深く学びたいと思いました。今回の学習会は回数も時間も少なく、学びきれないと感じました。

自分の住む東大和市でも爆弾の被害が実際にあり、そのことを忘れないために建物が保存されていることがわかり、戦争のことを人々に伝えるため大切にしていきたいと思いました。

地域の戦争は知らなかったのでびっくりしたし、こんなに身近にもあるんだと思いました。

## 実施前 広島と聞いて思い浮かぶイメージは何か

お好み焼き・広島カープ・原爆ドーム

原爆が落とされた場所。

原爆ドーム・お好み焼き（広島焼き）・かき・原爆の子の像

広島やき

原爆ドーム・戦争・きのこ雲・広島風お好み焼き・原子爆弾

原爆が落とされた場所。有名な物がたくさんある場所。

原爆ドームがある・広島カープ・お好み焼き

広島カープ・もみじ饅頭・原爆ドーム

広島焼き・かき・原爆ドーム・昔に戦争があった・田舎

原爆ドーム（世界遺産）・世界で初めて核兵器が落とされた場所・千羽鶴・たずねびと・お好み焼き・厳島神社（世界遺産）

広島城・原爆ドーム・かき・厳島神社・宮島

戦争で原子爆弾を投下された場所・カープ・人体に大きな影響が原爆にあった・原爆ドーム・お好み焼き

原爆ドーム

原爆が落ちた都市・お好み焼き

原爆ドーム・もみじ饅頭

原爆ドーム・広島東洋カープ・お好み焼き・原子爆弾・広島城

原爆ドーム・お好み焼き・戦争・平和記念公園・広島カープ

広電（路面電車）・平和の鐘・広島弁・広島駅・広島大学・カキ・モダン焼き・尾道ラーメン・瀬戸内海・もみじ饅頭・宮島・大鳥居・二ノ力・広島東洋カープ・マツダスタジアム・マツダ自動車・地震が少ない・北部には積雪がある・広島菜漬け・ひかりレールスター

原子爆弾が初めて落とされた場所・母の出身地・お好み焼きで有名・レモンとカキの生産量日本一・プロ野球チーム広島東洋カープが生まれた場所・原爆ドーム・尾道ラーメン・宮島の厳島神社・筆・マツタケの生産量日本一・日本一物価が安い・もみじ饅頭が名物・広島城・三原城・帝釈峡・高谷山展望台・三段峡・しまなみ海道・因島・生口島

やっぱり広島といえば原爆ドームのイメージです。私は「この世界の片隅に」の映画とドラマを見たことがあり、そのとき見た内容にとても衝撃を受けたことを覚えています。ですから広島といえば「この世界の片隅に」というイメージもあります。平和学習に関係ないことだと、私は野球が好きなので広島といえばカープです。あとは、お好み焼き等のおいしいものが多いような印象があります。

## 実施後 実際に行った後の広島のイメージ

原爆により一瞬で町や家族を壊されたくさんの死者がでた県。

広島は今も平和ではない所、人もいるなどと思っていましたが、今は平和で、笑顔でみんな過ごしていました。

原爆が落とされて、たくさんの人や建物が犠牲になってしまったけど、今では復興していてすごいと思いました。

原爆の被害にあい、町も人もボロボロになった地域が見事に復興を果たし、明るく美しい都会に発展している様子を見て、多くの人々の協力や努力があったのだろうと感じました。きっと大勢の人の涙と汗がしみ込んだ大地なのだと思います。

原爆の被害を受けた後の人々の心がとても強かったからこそ、ここまで復興できたんだと思った。

公園には、原爆に関わるものが多くあった。

恐ろしい原爆の被害を受け、焼け野原になった町から美しい町へと立ち直った強い場所。

思ったより栄えていた。戦争のことを町に残そうとする気持ちが想像以上に多かった。

戦争の恐ろしさと、平和の大切さを訴える重要な場所だと感じた。

広島は原爆ドームしか昔のものはないだろうと思っていたけどたくさんあった。だから広島は平和の進化の町だと思った。

最初は、原爆ドームぐらいしか、残っていないものだと思っていたが、原爆ドーム以外にも原爆の被害にあった建物が残っていて、びっくりした。

広島は、原爆ドームや、袋町小学校など、戦争に関係している物が多いから、戦争は二度とおこしてはいけないというきっかけになるとても大事な場所。

今はとても栄えている町なので昔から明るい町なのかと思ったけど、原爆投下を乗りこえてできた栄えた町だと思った。予想どおりカープの町だった。

77年前に原爆が落とされていて、そこから町を作り直したり、食べ物を食べたりするのに苦労をしていたのに、77年間の間に（広島に行って）すごい発展していて、本当にすごいなと思いました。

広島ははじめ怖いようなイメージでしたが、みなさんとても明るくてすごく協力しているんだと思いました。広島はたくさん有名な物があるんだとも思いました。

広島＝原爆が落ちた街というイメージだったけど今は全然そんなことなくて、住んでいる人もみんな元気で、建物も立派で、でも原爆ドームなど被爆した建物も残っていて、私は日本で一番平和を願っている街だと思いました。

世界で最初に原子爆弾が投下された場所で、77年前の広島市街は血の海だったということ。広島市に住んでいた人だけでも14万人が亡くなったこと。

今は、ビルなども多く建っていて、にぎやかな町だけど、たった77年前はたくさんの人が亡くなり、苦しい思いをし、一瞬で広島の町を焼け野原にした原爆がおちた所。戦争は二度とおこしてはいけないというメッセージがある所。

広島は戦争について多く知ることができて良かったし、広島についてもっと知りたいと思った。

市民のみなさんがとても優しく、にぎやかで、とても明るい町だった。「住みたい」と思える程素敵なところで、また行きたいと思った。

## 実施前 平和とは何だと思うか

- 戦争を決して行わず、みんながいつもどおりの楽しい生活を送れること
- 他国などとの争いで命を落とさないこと

- だれも苦しまず、傷つかないこと
- 争いを一切起こさないこと

すべての人が、公平に安全に生活できること。

平和とは争いがなく、みんなが幸せでいられることだと思います。おいしいごはんを食べることができたり、友達と遊んだり、勉強したり当たり前のことができることが幸せで、平和なのだと考えました。

互いに意見が尊重され、武力ではなく話し合いで物事を考えること。誰もが健康に生きることができる社会があること。個性を発揮することができること。

皆が争いをせず、仲良く幸せに暮らして行ける事　差別や犯罪が起こらない事　一人一人がありのままの自分で暮らして行ける事　生きる事に苦しむ人がいなくなる事　皆が笑い合って当たり前の生活が送れる事　大切な人と幸せに生きて行ける事

争いがなく、誰もが幸せと思える世界。

みんなが幸せなこと。みんなが笑顔でいること。

- 暴力や争いで社会が荒れていないこと
- 不公平なことがないこと
- みんなが不満をもたないこと
- 安心した暮らし
- 安定した生活

差別がない　いじめがない　戦争が二度とおきない　建物や自然が壊されていない　家族が一緒にいられる　教育が受けられる　趣味などが楽しめる　物価が安定している　法律が機能している　犯罪がない　餓えや貧困がない　電話、電気、ガス、水道が使える　仕事ができる　自由な暮らしができる　友達や仲間がいる　快適な暮らし　着る物がある　銃や麻薬がない　言論の自由がある　核を持たない　監視されない　衛生的な暮らしができる　医療が受けられる

- 人々が幸せに暮らせること
- 争いがないこと
- 差別がないこと

- 家族と恐怖を持つことなく暮らせること
- 好きな物、好きなことができる
- 恐怖心を持つことなく何ごともない日々を送ることができること

- 笑顔
- 戦いがない
- 無差別に命が奪われない

- みんなが楽しく安全にすごせる世界
- 自由

戦争などの災いがない世界になること。

だれも戦争などの暴力で幸せが壊されないこと。

おだやかな日々が続くこと。

みんなが平等に暮らせる社会。

- 仲良くすること
- 助け合い

戦争をしないこと！

## 実施後 平和とは何だと思いますか。

平和とは人々が笑顔で幸せに生活できることだと思います。それは自分だけでも私以外のみんなでもだめで、世界中の全員が幸せでいることです。

だれも、傷つかないこと。

なにげない日々。

自分にとって大切な人がいる事。

すべての人が平等に幸せになれること。

世界中の全ての人が幸せなこと。

全ての人が幸せで笑いあっていけること。

みんなが幸せだと思えること。

幸せになる時を考え、それが実現されるとき。

みんなが毎日を幸せに生きられること。それぞれを信頼し合えること。

大切な人と笑い合って暮らしていけること。生きることに苦しみを感じる人がいなくなる時。

みんなが幸せで笑顔があふれ出し、誰一人不幸ではないこと。

家族、友人にすぐに会うことができ、日常がなんでもなく感じられること。

いろいろな人、動物などと共存して仲良く過ごすこと。

私は初め平和とは食べ物を食べられ住む所があることかと思っていました。ですがそれはちがうと思いました。「衣、食、住」がそろっていても戦争をしていたり、いじめられていたらそれは平和ではないと思い、私は、「だれもが幸せに笑い合えること」だと思いました。

- 一人一人が幸せを築いていけること
- 幸せとは何か考えられること

- 戦争と核兵器がなくなること
- 社会の秩序が保たれ、人同士が傷つけ合わない世界のこと
- 人が互いに譲歩し、尊重しあったり、認め合ったりできる社会

身近な人と楽しく、笑顔で過ごせること。

自分も周りの人も大切にし、互いに助け合うこと。

だれもが笑顔で安心して暮らせること。問題が力ではなく話合いで解決できること。

実施前は、平和とは「戦争や暴力がない状態」といった具体的な意見が多くありました。実施後は「全ての人々が幸せでいられること」といったように、平和に対するイメージが広がっています。自分だけが幸せであってもそれは平和な社会とは言えず、人との関わり合いのなかで多くの人が傷つかず幸せに暮らせる状態が平和だと考えるようになったようです。

## 実施後 本事業で何を学び、何を得たか

爆弾を使ったら、一瞬で町、家族の幸せを壊し多くの人が長い間苦しみ続けたことを学ぶことができました。

平和の大切さについて学び、自分が行動しなければいけないことを実感することができ、行動力を得ることが出来た。

爆弾は本当になくさなければいけないもの。戦争の後の暮らしは、不平等で、食料や生活に困っていた。

本事業で、戦争の悲惨さと恐ろしさを学び、戦争は、絶対に起こしてはいけないという考えを得ました。

幸せに毎日を生きていけることの尊さ。戦争は二度とあってはいけないもの。たくさんの人が亡くなり苦しんだことを私たちが次の世代へ伝えていかなければならないということ。

戦争の悲惨さ、命の尊さを学びました。戦争はどこか他人事のように思っていたところがあったのですが、今回学んだことで、戦争を起こしてはいけないと思うだけでなく、戦争を起こさないために自分が行動を起こそうと思えるようになりました。

平和とは何かということや幸せ、そして戦争の恐ろしさについて。

戦争の悲惨さを学び、戦争・原爆の知識を得た。

核兵器を世界中から無くそうとする訴えを聞き、平和学習の大切さ、戦争を起こしてはいけないことを改めて知った。

- 戦争の恐ろしさと被害の大きさ、真実
- 学びと気付きの共有
- 戦争を語り継ぐ事の大切さ
- 強い志

戦争の悲惨さや平和の尊さ、実際に見て学ぶことの大切さ！！

戦争の悲惨さ、幸せに暮らせることの尊さを学び、伝えることの大切さを得た。

平和の尊さ、戦争は二度と、絶対に、起こしてはいけない。

戦争のおろかさ。戦争への反対の思い。

平和とは何なのか・原爆の恐ろしさ、平和の大切さ！！

平和とは戦争とはを学び、広島と戦争に対する知識を得ました。

戦争の悲惨さやおろかさ。戦争反対の思い。

戦争のことを深く知ることができ、二度と戦争を起こしてはならないと改めて思えた。

戦争は昔話ではないこと。そして、今起こっていることは間違っているということ。

戦争の怖さ、平和の大切さを学び、自分は今平和だという自覚を得ました。

本事業の実施前に、参加者に「何を学び、何を得たいか」を聞き、実施後に「何を学び、何を得たか」を自由に記入してもらいました。実施前は「戦争の悲惨さ」「命の大切さ」「平和を守ることの重要性」を学びたいという意見が多数あり、この3点は実施後もよく学べたという意見が多かったです。さらに、自身が周りに平和の大切さを語り伝え、行動する力を得たという意見もあり、自身の学びに加えて、学んだことを今後の行動に活かすことについても考えることができました。

## 実施後 本事業に参加した感想

戦争で原爆の被害を受けた人達は希望を忘れずに立ち上がったことを聞き、私も簡単な事ではくよくよせずに諦めず何度でも立ち上がりたい。

戦争は今まで遠いものと思っていたがそうではなかった。実際に広島を訪問してみて気づいたことがたくさんあった。広島で悲惨な出来事があったから、平和を大切にしていきたいと思った。

戦争のおろかさを知って、戦争について興味をもった。

たくさんの原爆についての情報や平和について学べた。

楽しく仲間と戦争について知ることができた。

平和の大切さ・命の大切さがとてもわかった。

原爆による被害、被爆後の人々の生活、広島の町並みを比較できてよかった。日本人として戦争について知ることができてよかった。お好み焼きがおいしかった。

原爆ドームを間近で見ることができて嬉しかった。平和式典で、たくさんの人が見に来ていて、びっくりした。戦争は本当に辛いものだと、改めて思った。お好み焼きがおいしかったです。

訪問してみて戦争は昔話みたいに思っていたけれど本当はすぐ近くのことなんだと思いました。

戦争の恐怖と平和の大切さを学べて将来役に立ちそうだと思いました。

被爆した方のお話や、原爆ドームなどに行ける、貴重な体験をすることができて、とても楽しかったです。

地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業に参加してみて、戦争についてしっかりと考えることができ、とてもいい経験をすることができました。この経験を活かしていけたらいいなと思いました。

知らない人がたくさんいる中で広島に行くことが最初は不安だったけど、時間がたつとみんなで楽しく考えや感じたことを共有し、学ぶことができてよかったです。戦争は恐ろしく悲しいことを強く感じました。本当にこの事業に参加できてよかったです。

私は、日本と世界がいつまでも平和であってほしい、二度と原爆を使わないでほしいと強く思いました。自分が見て、感じたことを学校の友達にも話してみようと思いました。

違う学校の子、違う学年の子と仲良くなれたり、平和や戦争について学ぶことができたり、とても良い経験になりました。みんな優しくてとても楽しかったです。

本当の平和とは何なのかというのは、誰一人、不幸ではない暮らしだということが分かりました。

今回、この事業に参加して戦争は絶対やってはいけないことだと強く感じた。また、原爆が落とされて77年もたつのに今だに核がなくならないことに疑問をもった。今回様々なことを学んで長崎を最後に原爆が落とされた地にできるように後世に語り継いでいきたいと思った。

新しい時代を担う僕らが戦争と核兵器を廃絶しなければならない。そのために僕はもっともっと戦争や核兵器について学ぶ必要がある。
正直なところ、時間が短すぎて平和のつどいで発表した内容がどれだけみんなに伝わったか不安です。

戦争に対する思いが変わったこと。戦争は大切な人を一瞬で失うこと。

原爆ドームを見て、前は大きい建物だったのに骨組みしか残っていないのを見て、原爆の威力は恐ろしいと思いました。そして、14万人が原爆で死んでしまったことを知りました。なので、戦争は絶対にやってはいけないと思いました。なのに、今ウクライナとロシアで戦争が起きていて、とてもひどいと思いました。

## 実施後 今後、戦争・平和学習として実施してほしい事業、訪問してみたい場所など

- 同じメンバーによる定期的な学習会
- 出征兵士の手紙を見たり、軍歌などを聞いてみたい
- 新宿の平和祈念展示資料館や靖国神社に行ってみたい

ウクライナとロシアの戦争のことについて

被爆者の話を語り継ぐ人を増やすこと。

- 路面電車（ひろでん）に乗る（できれば被爆電車）
- とうろう流しをしてみたい

国と国の戦争について

沖縄県のひめゆりの塔

アウシュビッツ

長崎や沖縄のことについても学びたい。

# 8 資　料

## 東大和市平和都市宣言

恒久平和の実現と、核兵器の廃絶は、全人類共通の願望である。

世界の世論のたかまり、各国の相互理解により、核兵器の廃絶にむけて曙光が見えてきたとはいえ、依然として地球上には多くの核兵器が貯えられている。

世界で唯一の核被爆国の国民として、また、国際社会の平和と協調を理念とする憲法をもつ国の国民として、人類の安全と幸福のために、地域紛争を含むすべての戦争の防止と、あらゆる核兵器の廃絶を心から願うものである。

ここに、平和を愛する全世界の人々と手を携えて、戦争と核兵器のない世界の建設にむけて努力することをあらためて誓い、東大和市が平和都市であることを宣言する。

平成２年10月１日

宣言

# 東村山市
# 核兵器廃絶平和都市宣言

地球上には、全ての生命と文明を一瞬にして滅亡させてなお余りある核兵器が存在し、人々はその脅威にさらされている。

世界唯一の核被爆体験を持つ国民として、いかなる地域においても、再び広島・長崎のあの惨禍を繰り返してはならない。我々市民は、核兵器がいかに悲惨なものであるかを、全世界に強く訴えるものである。

東村山市は、瞬時に自然を破壊し、人類の滅亡をもたらす核兵器の廃絶と、人類永遠の平和の願いをこめて、「核兵器廃絶平和都市」であることをここに宣言する。

昭和62年9月25日

東京都　東村山市

**令和４年度**
**東大和市・東村山市**
**地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業　報告書**

令和４年12月　発行
編集・発行
東大和市・東村山市広島派遣事業実行委員会
・東大和市教育部生涯学習課
東京都東大和市中央3-930
電話　042-563-2111（内線1555）
・東村山市市民部市民相談・交流課
東京都東村山市本町1-2-3
電話　042-393-5111（内線3313）

戦争中の東村山を知ろう

令和４年度　東大和市・東村山市
地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業